

Camera Browser Interface

DINION IP thermal 8000



BOSCH

ja ソフトウェアマニュアル

目次

1	ブラウザー接続	11
1.1	システム要件	11
1.2	接続作業	11
1.3	カメラのパスワード保護	12
1.4	保護ネットワークで本機を使用する	12
2	ブラウザー表示	13
2.1	ブラウザーのメインメニュー	13
3	ブラウザーからの操作	15
3.1	ブラウザーのライブページ	15
3.1.1	[接続] >> [ストリーム]	15
3.1.2	デジタル I/O	15
3.1.3	録画ステータス	16
3.1.4	スナップショットの保存	16
3.1.5	ライブ映像の録画	16
3.1.6	全画面表示	16
3.1.7	ストレージ、CPU、およびネットワークのステータス	17
3.1.8	ステータスアイコン	17
3.1.9	音声通信	18
3.2	ブラウザー経由で再生	19
3.2.1	録画ストリームの選択	19
3.2.2	録画映像の検索	19
3.2.3	録画映像のエクスポート	20
3.2.4	再生の制御	20
4	設定 - 全般設定	22
4.1	識別情報	22
4.1.1	命名	22
4.1.2	ID	22
4.1.3	イニシエーター拡張	22
4.2	ユーザー管理	22
4.2.1	認証モード	22
4.2.2	認証レベル	23
4.3	日付/時刻	24
4.3.1	日付書式	24

4.3.2	デバイスの日付/デバイスの時刻	24
4.3.3	デバイスのタイムゾーン	24
4.3.4	サマータイム	24
4.3.5	タイムサーバーの IP アドレス	25
4.3.6	タイムサーバーの種類	25
4.4	映像のオーバーレイ情報	26
4.4.1	カメラ名のオーバーレイ表示	26
4.4.2	ロゴのオーバーレイ表示	26
4.4.3	時刻のオーバーレイ表示	26
4.4.4	ミリ秒単位表示	27
4.4.5	スピナー	27
4.4.6	アラームモードのオーバーレイ表示	27
4.4.7	アラームメッセージ	27
4.4.8	透過背景	27
4.4.9	映像信頼性	27
4.5	GB/T 28181	28
5	設定・Web インターフェース	29
5.1	外観	29
5.1.1	Web サイト言語	29
5.1.2	メーカーロゴ	29
5.1.3	デバイスロゴ	29
5.1.4	VCA メタデータ表示	29
5.1.5	VCA 軌跡表示	30
5.1.6	オーバーレイアイコンの表示	30
5.1.7	VCA 項目の表示	30
5.1.8	遅延モード	30
5.1.9	JPEG 映像のサイズ、間隔、および画質	30
5.2	ライブ機能	31
5.2.1	音声伝送	31
5.2.2	リース時間 [秒]	31
5.2.3	アラーム入力表示	31
5.2.4	アラーム出力表示	31
5.2.5	スナップショット許可	31
5.2.6	ローカル録画許可	32
5.2.7	1-フレームのみのストリーム	32

5.2.8	登録ポジションの表示	32
5.2.9	インテリジェントトラッキングの表示	32
5.2.10	JPEG/映像ファイル保存先	32
5.2.11	映像ファイル形式	32
6	設定 - カメラ	33
6.1	カメラ - インストーラーメニュー	33
6.1.1	ベースフレームレート	33
6.1.2	カメラ LED	33
6.1.3	[MENU] ボタン	33
6.1.4	アナログ出力	33
6.1.5	デバイスの再起動	33
6.1.6	出荷時デフォルト設定	33
6.2	カメラ - 位置調整	33
6.3	カメラ - 映像設定	40
6.4	カメラ - エンコーダー設定	42
6.5	カメラ - プライバシーマスク	42
6.6	カメラ - 音声	43
6.6.1	音声	43
6.6.2	入力ボリューム	43
6.6.3	ライン出力	43
6.6.4	記録形式	43
6.7	カメラ - ピクセルカウンター	44
7	エンコーダー設定	45
7.1	エンコーダー設定について	45
7.2	エンコーダープロファイル	45
7.2.1	事前定義済みのプロファイル	46
7.2.2	プロファイルの変更	46
7.2.3	プロファイル名	46
7.2.4	ターゲットビットレート	46
7.2.5	最大ビットレート	47
7.2.6	エンコーディング間隔	47
7.2.7	標準画質映像解像度	47
7.2.8	エキスパート設定	47
7.2.9	デフォルト	49
7.3	エンコーダーストリーム	49

7.4	エンコーダー領域	50
8	録画	51
8.1	録画について	51
8.2	ストレージ管理	51
8.2.1	デバイスマネージャー	51
8.2.2	録画メディア	51
8.2.3	ストレージメディアのアクティブ化と設定	52
8.2.4	ストレージメディアのフォーマット	53
8.2.5	ストレージメディアの非アクティブ化	53
8.3	録画プロファイル	54
8.3.1	録画トラックの選択	54
8.3.2	標準録画	55
8.3.3	アラーム録画	55
8.4	最大保存期間	56
8.5	録画スケジューラー	56
8.5.1	平日	57
8.5.2	休日	57
8.5.3	プロファイル名	58
8.5.4	録画のアクティブ化	58
8.5.5	録画ステータス	58
8.6	録画ステータス	58
9	アラーム	59
9.1	アラーム接続	59
9.1.1	アラーム発生時に接続	59
9.1.2	接続先 IP アドレス数	59
9.1.3	接続先 IP アドレス	59
9.1.4	接続先パスワード	59
9.1.5	映像伝送	60
9.1.6	ストリーム	60
9.1.7	リモートポート	60
9.1.8	映像出力	60
9.1.9	デコーダー	61
9.1.10	SSL 暗号化	61
9.1.11	自動接続	61
9.1.12	音声	61

9.2	映像コンテンツ解析 (VCA)	61
9.3	音声アラーム	62
9.3.1	音声アラーム	62
9.3.2	名称	63
9.3.3	信号範囲	63
9.3.4	しきい値	63
9.3.5	感度	63
9.4	アラーム E-メール	63
9.4.1	アラーム E-メール送信	63
9.4.2	メールサーバー IP アドレス	63
9.4.3	SMTP ポート	64
9.4.4	SMTP ユーザー名	64
9.4.5	SMTP パスワード	64
9.4.6	フォーマット	64
9.4.7	画像サイズ	64
9.4.8	JPEG 画像添付	64
9.4.9	VCA オーバーレイ	64
9.4.10	宛先アドレス	64
9.4.11	送信者アドレス	65
9.4.12	送信テスト	65
9.5	Alarm Task Editor	65
10	VCA の設定	66
10.1	VCA - サイレント VCA	66
10.2	VCA - プロファイル	67
10.2.1	アグリゲーション時間 [秒]	67
10.2.2	解析タイプ	67
10.3	VCA - スケジュール	68
10.3.1	平日	68
10.3.2	休日	68
10.4	VCA - イベントトリガー	69
10.4.1	トリガー	69
10.4.2	トリガーアクティブ	69
10.4.3	トリガー非アクティブ	69
10.4.4	遅延 [秒]	70

11	インターフェース	71
11.1	アラーム入力	71
11.1.1	名称	71
11.1.2	アクション	71
11.2	アラーム出力	71
11.2.1	アイドル状態	72
11.2.2	操作モード	72
11.2.3	出カトリガーイベント	72
11.2.4	出力名	72
11.2.5	出力を切り替え	72
11.3	COM1	72
11.3.1	シリアルポートの機能	72
11.3.2	カメラ ID	73
11.3.3	ボーレート	73
11.3.4	データビット	73
11.3.5	ストップビット	73
11.3.6	パリティチェック	73
11.3.7	インターフェースモード	73
12	ネットワーク	74
12.1	ネットワークサービス	74
12.2	ネットワークアクセス	74
12.2.1	IPv4 自動割当	74
12.2.2	IPv4 アドレス	74
12.2.3	IPv6 アドレス	75
12.2.4	DNS サーバーアドレス	75
12.2.5	映像伝送	75
12.2.6	HTTP ブラウザーポート	75
12.2.7	HTTPS ブラウザーポート	76
12.2.8	必要な最低 TLS バージョン	76
12.2.9	HSTS	76
12.2.10	RCP+ポート 1756	76
12.2.11	インターフェースモード ETH	76
12.2.12	ネットワーク MSS [バイト]	77
12.2.13	iSCSI MSS [バイト]	77
12.2.14	ネットワーク MTU [バイト]	77

12.3	DynDNS	77
12.3.1	DynDNS の使用	77
12.3.2	プロバイダー	77
12.3.3	ホスト名	77
12.3.4	ユーザー名	78
12.3.5	パスワード	78
12.3.6	今すぐ登録を実行	78
12.3.7	ステータス	78
12.4	詳細設定	78
12.4.1	クラウドベースサービス	78
12.4.2	RTSP ポート	78
12.4.3	認証 (802.1x)	79
12.4.4	TCP メタデータ入力	79
12.5	ネットワーク管理	79
12.5.1	SNMP	79
12.5.2	UPnP	80
12.5.3	サービス品質	80
12.6	マルチキャスト	80
12.6.1	有効	81
12.6.2	マルチキャストアドレス	81
12.6.3	ポート	81
12.6.4	ストリーミング	82
12.6.5	マルチキャストパケット TTL	82
12.7	画像転送	82
12.7.1	JPEG 転送	82
12.8	アカウント	83
12.9	IPv4 フィルター	84
13	サービス	85
13.1	メンテナンス	85
13.1.1	アップデートサーバー	85
13.1.2	ファームウェア	85
13.1.3	アップロード履歴	86
13.1.4	設定	86
13.1.5	メンテナンスログ	87
13.2	ライセンス	87

13.3	証明書	87
13.3.1	使用状況	87
13.3.2	証明書の追加	88
13.4	ログ作成	88
13.5	システムの概要	89
14	付録	90
14.1	著作権表示	90

1 ブラウザー接続

Microsoft Internet Explorer をインストールしたコンピューターで、ライブ画像の受信や、本機の制御、および保存したシーケンスの再生を実行できます。本機は、ブラウザを使用してネットワーク経由で設定できます。

1.1 システム要件

注意：

ブラウザでライブ画像を表示するには、Bosch のダウンロードストアから MPEG-ActiveX をダウンロードしてインストールする必要があります。

推奨事項は次のとおりです。

- デュアルコア HyperThreading プロセッサー以上を搭載したコンピューター
- カメラの解像度と一致するか、またはそれより優れた性能を持つグラフィックカード
- Windows 7 以降のオペレーティングシステム
- ネットワークアクセス
- Internet Explorer バージョン 11 以降
 - または -
 - アプリケーションソフトウェア (Video Security Client、Bosch Video Client、Bosch Video Management System など)

1.2 接続作業

本機には、ネットワーク上で使用するための有効な IP アドレスとサブネットマスクを設定する必要があります。

デフォルトでは、DHCP はオン+リンクローカルアドレスに設定されているため、DHCP サーバーが IP アドレスを割り当てます。DHCP サーバーが存在しない場合、169.254.1.0~169.254.254.255 の範囲でリンクローカルアドレス (Auto IP) が割り当てられます。

IP アドレスの検出には、IP Helper または Configuration Manager を使用できます。次のサイトからソフトウェアをダウンロードしてください。<http://downloadstore.boschsecurity.com>

1. Web ブラウザーを起動します。

2. 本機の IP アドレスを URL として入力します。
3. 最初のインストール時に、表示されるセキュリティに関する質問をすべて確認します。

注意：

接続できない場合、本機の最大接続数に達している可能性があります。デバイスおよびネットワークの設定によっては、1 台ごとに、Web ブラウザー接続で最大 50、Bosch Video Client または Bosch Video Management System 経由で最大 100 の接続が可能になります。

1.3 カメラのパスワード保護

本デバイスはパスワード保護されています。本デバイスへの初回アクセス時に、サービスレベルのパスワードの設定を求めるウィンドウが表示されます。

ユーザー名(「**service**」)とパスワードを該当するフィールドに入力します。詳細については、「ユーザー管理」のセクションを参照してください。

デバイスにサービスレベルのパスワードを設定すると、デバイスにアクセスするたびにユーザー名(「**service**」)とサービスレベルのパスワードを入力するように促すダイアログボックスが表示されます。

1. [ユーザー名]と[パスワード]の両フィールドに入力してください。
2. [OK]をクリックします。パスワードが正しければ、目的のページが画面に表示されます。

1.4 保護ネットワークで本機を使用する

RADIUS サーバーを使用してネットワークアクセスを制御(802.1x 認証)する場合は、はじめに本機を設定する必要があります。本機を設定するには、ネットワークケーブルを使用してカメラをコンピューターに直接接続し、[ID]と[パスワード]の2つのパラメーターを設定します。これらのパラメーターを設定してからでないと、ネットワークを介して本機と通信できません。

2 ブラウザー表示

接続が完了すると、[ライブ] ページが最初に表示されます。
アプリケーションバーには、次のアイコンが表示されます。

	ライブ	ライブビデオストリームを表示するには、このアイコンをクリックします。
	再生	録画したシーケンスを再生するには、このアイコンをクリックします。 このリンクは録画用にストレージメディアが設定されている場合のみ表示されます (VRM 録画では、このオプションは非アクティブになります)。
	設定	本機を設定するには、このアイコンをクリックします。
	リンク	Bosch のダウンロードストアに移動するには、このアイコンをクリックします。
		特定のページに関するヘルプを参照するには、このアイコンをクリックします。

2.1 ブラウザーのメインメニュー

ライブビデオストリームを表示して本機を制御するには、[ライブ] ページを使用します。

録画したシーケンスを再生するには、[再生] ページを使用します。

本機とアプリケーションのインターフェースを設定するには、[設定] ページを使用します。

設定の変更

各設定画面には現在の設定が表示されます。新しい値を入力したり、事前設定済みの項目を選択することで設定を変更できます。

すべてのページに [セット] ボタンがあるわけではありません。[セット] ボタンがないページの変更はすぐに設定されます。ページに [セット] ボタンがある場合は、[セット] ボタンをクリックして変更を有効にする必要があります。

注記!



設定はそれぞれ対応する [セット] ボタンで保存します。

[セット] ボタンをクリックすると、現在画面に表示されている設定のみが保存されます。他のフィールドで設定した変更内容は無視されます。

本機を再起動しないと有効化されない設定があります。この場合、[セット] ボタンが [セットして再起動] に変わります。

1. 必要な変更を行います。
2. [セットして再起動] ボタンをクリックします。カメラが再起動し、変更した設定が有効になります。

3 ブラウザーからの操作

3.1 ブラウザーのライブページ

接続が確立すると、まずライブページが表示されます。ブラウザーウインドウの右側にライブビデオ画像が表示されます。設定に応じて、さまざまなテキストがライブビデオ画像にオーバーレイ表示されます。

ライブ映像の横にその他の情報が表示される場合もあります。表示される項目は、「ライブ」機能] ページの設定によって異なります。

3.1.1 [接続] >> [ストリーム]

ライブストリームを表示するには、次のようにします。

1. 必要に応じて、ブラウザーの左側にある [接続] グループを展開します。
2. [ストリーム] ドロップダウン矢印をクリックしてオプションを表示します。
3. 表示するストリームを選択します。

ストリーム 2 エンコーダストリームが関心領域 (ROI) に設定されている場合、ROI コントロールパネルが有効になります。

ストリーム 2 の設定の詳細については、Encoder Streams を参照してください (デュアル ROI を使用できる場合は、別のブラウザーウインドウでカメラを開き、ストリーム 2 に対する ROI を設定します) 。

3.1.2 デジタル I/O

(アラーム接続端子付きのカメラのみ)

ユニットの設定に応じて、アラーム入力および出力が画像の横に表示されます。必要に応じて、[デジタル I/O] グループを展開します。アラーム記号は情報を表し、アラーム入力のステータスを示しています。

- 入力アラームがアクティブの場合、記号が点灯します。アラーム出力により、外部デバイス (ライトやドアオープナーなど) を操作できます。
- この出力をアクティブにするには、チェックマーク記号をクリックします。

- 出力がアクティブになると、記号が点灯します。

3.1.3 録画ステータス

ライブカメラ画像の下のハードディスクアイコン  は、録画中に変化します。アイコンが点灯し、動くグラフィックが表示されている場合、録画中であることを示します。録画プログラムが実行されていない場合は、アイコンは動きません。

3.1.4 スナップショットの保存

表示されているライブ映像ストリームからスナップショットを作成し、JPEG 形式でコンピューターのハードディスクにローカル保存できます。保存先は、カメラの設定によって異なります。

- カメラアイコン  をクリックすると、1 つの画像が保存されます。

3.1.5 ライブ映像の録画

表示されているライブ映像ストリームから映像シーケンスを作成し、コンピューターのハードディスクにローカル保存できます。シーケンスは、エンコーダー設定で指定された解像度で録画されます。保存先は、カメラの設定によって異なります。

1. 映像シーケンスを録画するには、録画アイコン  をクリックします。
 - すぐに録画が開始されます。アイコン内の赤い点は、録画が進行中であることを示します。
2. 録画を停止するには、録画アイコンをもう一度クリックします。

3.1.6 全画面表示

全画面アイコン  をクリックすると、選択したストリームが全画面モードで表示されます。キーボードの **Esc** キーを押すと、標準の表示ウィンドウに戻ります。

3.1.7 ストレージ、CPU、およびネットワークのステータス



ブラウザでユニットにアクセスすると、ローカルストレージ、プロセッサ、およびネットワークステータスアイコンがウィンドウ右上に表示されます。

ローカルストレージを利用できる場合、メモリーカードアイコンの色が変化し（緑、オレンジ、または赤）、ローカルストレージのアクティビティが示されます。このアイコンにポインターを重ねると、ストレージのアクティビティがパーセンテージで表示されます。

真ん中のアイコンにポインターを重ねると、CPU 負荷が表示されます。

右側のアイコンにポインターを重ねると、ネットワーク負荷が表示されます。

この情報は、問題解決やユニットの調整時に役立ちます。次に例を示します。

- ストレージのアクティビティが高すぎる場合、録画プロファイルを変更します。
- CPU 負荷が大きすぎる場合、VCA 設定を変更します。
- ネットワーク負荷が大きすぎる場合、エンコーダーのプロファイルを変更してビットレートを減らします。

3.1.8 ステータスアイコン

映像には、重要なステータス情報をオーバーレイ表示できます。オーバーレイでは、次の情報が表示されます。



デコードエラー

デコードエラーにより、フレームにノイズが発生する場合があります。



アラームフラグ

アラームが発生したことを示します。



通信エラー

ストレージメディアへの接続の失敗、プロトコル違反、タイムアウトなど、通信エラーはこのアイコンによって示されます。



ギャップ

録画映像内のギャップを示します。



透かしが有効

メディア項目に設定された透かしが有効であることを示します。チェックマークの色は、選択した映像認証方式によって異なります。



透かしが無効

透かしが有効ではないことを示します。



動体検出アラーム

動体検出アラームが発生したことを示します。



ストレージ検出

録画映像を取得していることを示します。



フラットフィールド補正

自動フラットフィールド補正 (FFC) により、操作中を通して、検出器の適切なキャリブレーションが実行されます。プロセスの実行中、映像は 1 秒以下程度停止します。その後、映像は自動的に元に戻ります。FFC 操作を繰り返すことで、画像が "粗く" 見えるのを防止できることがあります。これは、電源を入れた直後や周囲温度がドリフトしているときなど、カメラの温度が変動しているときに特に重要です。

3.1.9 音声通信

本機とコンピューターで音声サポートされている場合は、[ライブ] ページ経由で音声を送受信できます。

1. キーボードの F12 キーを押したままにすると、本機に音声信号を送信します。
 2. キーを放すと、音声の送信を停止します。
- 接続されているすべてのユーザーが本機から送信された音声信号を受信しますが、音声信号を送信できるのは、最初に F12 キーを押したユーザーのみです。他のユーザーは、最初のユーザーがキーを放すまで待機する必要があります。

3.2 ブラウザー経由で再生

アプリケーションバーの  [再生] をクリックして、録画を表示、検索、またはエクスポートします。このリンクは、ダイレクト iSCSI またはメモリカードを録画用として設定している場合にのみ表示されます。(VRM 録画では、このオプションは非アクティブになります)。

左のパネルには次の 4 つのグループがあります。

- 接続
- 検索
- エクスポート
- トラックリスト

3.2.1 録画ストリームの選択

必要に応じて、ブラウザの左側にある [接続] グループを展開します。

録画ストリームを表示するには、次のようにします。

1. [録画] ドロップダウン矢印をクリックしてオプションを表示します。
2. 録画ストリーム 1 または 2 を選択します。

3.2.2 録画映像の検索

必要に応じて、ブラウザの左側にある [検索] グループを展開します。

1. 特定の時間範囲に絞って検索を実行するには、開始点と終了点の日時を入力します。
2. 検索パラメーターを入力するには、ドロップダウンボックスからオプションを選択します。

3. 検索の開始をクリックします。
4. 結果が表示されます。
5. 結果をクリックすると、再生が開始されます。
6. 新しい検索を行う場合には、[戻る] をクリックします。

3.2.3 録画映像のエクスポート

必要に応じて、ブラウザーの左側にある [エクスポート] グループを展開します。

1. トラックリストまたは検索結果でトラックを選択します (または映像ウィンドウの下のタイムラインをクリックし、表示されるボタンをドラッグして、エクスポートするシーケンスを選択します)。
2. 選択したトラックに対して、開始日時と終了日時が表示されます。必要に応じて、時刻を変更します。
3. [タイムラプス] ドロップダウンボックスで、オリジナル速度または圧縮速度を選択します。
4. [場所] ドロップダウンボックスで、ターゲットを選択します。
5. [エクスポート] をクリックして、映像トラックを保存します。

注意：

ターゲットサーバーアドレスは [ネットワーク]/[アカウント] ページで設定します。

3.2.4 再生の制御

ビデオ画像の下のタイムバーで時間軸を移動できます。映像が保存されている時間が、灰色でバーに表示されます。矢印は、シーケンス内の現在再生中の画像を示しています。

タイムバーには、シーケンス内およびシーケンス間での移動に使用できる、さまざまなオプションがあります。

- 必要に応じて、再生を開始する時点のバーをクリックします。
- プラスアイコンまたはマイナスアイコンをクリックするか、マウスのスクロールホイールを使用することで、表示される時間インターバルを変更できます。6 か月から 1 分の範囲まで表示を調整できます。
- 1 つのアラームイベントから次または前のアラームイベントに移動するには、アラームジャンプボタンをクリックします。赤色のバーは、アラームがトリガーされた時点を示します。

コントロール

映像の下にあるボタンによって再生を制御できます。

これらのボタンには、以下の機能があります。

- 再生開始または一時停止
- スピード調整機能による、再生スピード (順方向または逆方向) の選択
- 一時停止時におけるフレーム単位のステップ移動 (順方向または逆方向)(小さな矢印)

4 設定 - 全般設定

4.1 識別情報

4.1.1 命名

楽に識別できるように、一意の名前を割り当てます。名前を付けることにより、大規模なシステムで複数のデバイスを容易に管理できるようになります。

名前は、アラーム発生時など、リモートで識別するために使用されます。場所を容易に特定できる名称を選択してください。

4.1.2 ID

デバイスを識別できるように、それぞれに任意の ID を割り当てます。

4.1.3 イニシエーター拡張

大規模 iSCSI システムでの識別を容易にするために、イニシエーター名に文字を追加できます。この文字列はピリオドで区切られて、イニシエーター名として追加されます。（イニシエーター名は [System Overview (システムの概要)] で確認できます。）

4.2 ユーザー管理

ユーザー管理では、さまざまな認証レベルを使用してアクセスを制限することで、デバイスへの不正なアクセスを防止します。service に最初にログインし、パスワードを設定した場合は、各認証レベルのパスワードの定義と変更が行えます。

ユーザー管理により、ユーザー名の自由な割り当てが可能です。各ユーザーには、対応する認証レベルを持つユーザーグループを割り当てることができます。

4.2.1 認証モード

「許可された認証モード」セクションでは、カメラで設定された認証モードの詳細を確認できます。モードが設定されている場合、左側のチェックボックスにチェックマークが表示されます。モードが設定されていない場合、モード名の右側に「証明書がインストールされていません」というフレーズが表示されます。

パスワード

このフィールドは、カメラにパスワードが設定されているかどうかを示します。

証明書

このチェックボックスにチェックマークが入っている場合、カメラに少なくとも 1 つの証明書がロードされていることを示します。証明書がロードされていない場合、テキストの右側に「証明書がインストールされていません」と表示されます。

アクティブディレクトリサーバー (ADFS)

このチェックボックスにチェックマークが入っている場合、カメラがアクティブディレクトリサーバーを使用していることを示します。カメラが ADFS を使用していない場合、テキストの右側に「証明書がインストールされていません」と表示されます。

4.2.2 認証レベル

認証レベル

デバイスには、service、user、および live の 3 つの認証レベルがあります。

- service - 最上位の権限を付与する認証レベルです。正しいパスワードを入力すると、すべての機能を使用でき、設定項目をすべて変更できるようになります。
- user - 中位の権限を付与する認証レベルです。このレベルでは、デバイスの操作、録音の再生、カメラの制御などを行うことができますが、設定を変更することはできません。
- live - 最下位の権限を付与する認証レベルです。このレベルでは、可能な操作は、ライブビデオ画像の表示と、ライブ画像表示間の切り替えのみです。

ユーザーをグループへ追加

新しいユーザーをグループに追加するには、[追加] をクリックします。

テキストボックスに、新しいユーザーの名前を入力します。

[グループ] に対して、適切な認証レベルを選択します。

パスワードを入力し、同じパスワードを再度入力して確認します。パスワードの最大文字数は 19 文字で、特殊文字は使用できません。

パスワードの変更

パスワードを変更するには、該当する [ユーザー名] の [種類] 列の右にある鉛筆アイコンをクリックします。

パスワードを入力し、同じパスワードを再度入力して確認します。パスワードの最大文字数は 19 文字で、特殊文字は使用できません。

4.3 日付/時刻

4.3.1 日付書式

日付の表示形式を選択します。

4.3.2 デバイスの日付/デバイスの時刻

システムまたはネットワーク内で複数のデバイスが動作している場合は、それぞれのデバイスの内部クロックを同期させることが重要です。たとえば、すべてのデバイスが同じ時刻で動作していないと、同時録画を特定して、正しく検証することができません。

1. 現在の日付を入力します。デバイスの時刻は内部クロックで制御されるため、曜日を入力する必要はありません。曜日は自動的に追加されます。
2. 現在の時刻を入力するか、[**PC** に同期] をクリックして、コンピューターのシステム時刻をデバイスに適用します。

注意：

録画に際しては、日付と時刻が正確であることが重要です。日付と時刻の設定が正しくない場合、正しく録画されないことがあります。

4.3.3 デバイスのタイムゾーン

システムが設置されている地域のタイムゾーンを選択します。

4.3.4 サマータイム

内部クロックは、標準時間とサマータイム (DST) を自動的に切り替えます。ユニットには、すでに数年分の DST 切り替えデータが事前に用意されています。日付、時間、およびゾーンが正しく設定されている場合は、DST テーブルが自動的に作成されます。

このテーブルを編集して別のサマータイムを作成する場合は、値がペア (DST の開始日と終了日) で表示されることに注意してください。

最初にタイムゾーン設定を確認します。正しくない場合は、適切なタイムゾーンを選択して [セット] をクリックします。

1. [詳細] をクリックして DST テーブルを編集します。
2. テーブルの下のリストフィールドからシステムがある場所に一番近い地域または都市を選択してください。
3. [生成] をクリックして、ユニットのプリセット値をテーブルに入力します。
4. 変更するテーブルのエントリーのいずれかをクリックします。クリックしたエントリーが強調表示されます。
5. [削除] をクリックすると、テーブルからエントリーが削除されます。
6. エントリーを変更するには、テーブルの下のリストフィールドから他の値を選択します。変更は即座に反映されます。
7. エントリーを削除した後などに、テーブルの下に空の行がある場合、行をマークしてリストフィールドから値を選択することにより、新しいデータを追加できます。
8. 終わったら [OK] をクリックして、テーブルを保存し、アクティブにします。

4.3.5 タイムサーバーの IP アドレス

ユニットは、さまざまなタイムサーバープロトコルを使用してタイムサーバーから時刻信号を受信し、その信号を使用して内部クロックを設定します。デバイスは、1 分間に 1 回、自動的に時刻をポーリングします。

タイムサーバーの IP アドレスを入力します。

DHCP サーバーからの時報を使用するには、[**Overwrite by DHCP** (**DHCP** による上書き)] チェックボックスをオンにします。

4.3.6 タイムサーバーの種類

選択したタイムサーバーでサポートされているプロトコルを選択します。

- **SNTP** プロトコルプロトコルを選択することをお勧めします。
このプロトコルは精度が高いので、特殊な用途での使用や将来の機能拡張には不可欠です。
- サーバーが RFC 868 プロトコルを使用している場合は、[タイムプロトコル] を選択します。
- サーバーが RFC 5246 プロトコルを使用している場合は、[TLS プロトコル] を選択します。
- タイムサーバーを使用していない場合は、[オフ] を選択します。

4.4 映像のオーバーレイ情報

映像には、重要な補足情報をオーバーレイ表示（映像上に表示）できます。オーバーレイ表示させる情報は個別に設定でき、映像上に簡単に配置できます。

4.4.1 カメラ名のオーバーレイ表示

ドロップダウンボックスでカメラ名の表示位置を選択します。[上部] または [下部] を選択するか、[カスタム] オプションを選択して、表示する位置を個別に指定できます。[オフ] を選択すると、オーバーレイ情報は表示されません。
[カスタム] オプションを選択した場合は、X および Y の座標フィールドに値を入力します。

4.4.2 ロゴのオーバーレイ表示

画像にロゴを配置するには、最大サイズ 128x128 ピクセル、256 色の非圧縮.bmp ファイルを選択してカメラにアップロードします。その後で、画像上の位置を選択することができます。

4.4.3 時刻のオーバーレイ表示

ドロップダウンボックスで日付と時刻の表示位置を選択します。[上部] または [下部] を選択するか、[カスタム] オプションを選択して、表示する位置を個別に指定できます。[オフ] を選択すると、オーバーレイ情報は表示されません。
[カスタム] オプションを選択した場合は、X および Y の座標フィールドに値を入力します。

4.4.4 ミリ秒単位表示

必要に応じて、[時刻]をミリ秒単位で表示することもできます。ミリ秒単位の時刻表示は、録画した映像を見る際に役立ちますが、CPUに負荷がかかります。ミリ秒を表示する必要がない場合は、[オフ]を選択します。

4.4.5 スピナー

スピナー

[オン]を選択すると、カメラのハートビート（動作状況）表示で、OSD上にライブ映像がストリーミング中であることを示すスピナーが表示されます。スピナーは[オフ]を選択すると非表示になります。

4.4.6 アラームモードのオーバーレイ表示

アラーム発生時にテキストメッセージを表示するには、ドロップダウンボックスで[オン]を選択します。[カスタム]オプションを使用して表示位置を設定できます。オーバーレイ情報を表示しない場合は[オフ]に設定します。

[カスタム]オプションを選択した場合は、XおよびYの座標フィールドに値を入力します。

4.4.7 アラームメッセージ

アラーム発生時に画像の上に表示されるメッセージを入力します。テキストの長さは、31文字以内です。

4.4.8 透過背景

画像上のオーバーレイを透過背景にする場合は、このチェックボックスをオンにします。

4.4.9 映像信頼性

映像信頼性ドロップダウンボックスで、映像の信頼性を確認する方法を選択します。

透かしを選択した場合、すべての画像にアイコンのマークが付きます。このアイコンは、シーケンス（ライブまたは録画映像）が改変操作されたかどうかを示します。

デジタル署名を追加して伝送映像の信頼性を確保するためには、この署名の暗号化アルゴリズムを選択します。

デジタル署名の挿入間隔 (秒) を入力します。

4.5 GB/T 28181

このページでは、GB/T 28181 標準規格「Security and protection video monitoring network system for information transport, switch and control (ビデオ監視ネットワークシステムにおける情報伝送、切り替え、および制御のためのセキュリティと保護)」に準拠するようにパラメーターを設定できます。この標準は中国用です。

有効にする

システムで GB/T 28181 標準規格に従ってこのページの他のパラメーターを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

H.264 エレメンタリーストリーム

H.264 エレメンタリーストリームを選択または有効化するには、このチェックボックスをオンにします。

登録タイムアウト

登録タイムアウトの値 (ミリ秒) を入力します。デフォルトは 3600 です。

ハートビートタイムアウト

登録タイムアウトの値 (ミリ秒) を入力します。デフォルトは 15 です。

サーバー ID

サーバーの ID を入力します。

サーバー IP アドレス

サーバーの IP アドレスを入力します。

デバイス ID

デバイスの ID を入力します。

デバイスポート

デバイスポートの番号を入力します。デフォルトは 5060 です。

パスワード

適切なパスワードを入力します。

アラームデバイス ID

アラームデバイスの ID を入力します。

5 設定 - Web インターフェース

5.1 外観

Web インターフェースの外観や Web サイトの言語は、要件に合わせて変更できます。

GIF または JPEG 画像を使用して、メーカーロゴやデバイスロゴを置き換えることができます。画像は Web サーバー (たとえば、<http://www.myhostname.com/images/logo.gif>) に保存できます。

画像を表示するために、Web サーバーに常に接続できることを確認してください。画像ファイルはユニット上には保存されません。

元のグラフィックに戻すには、[メーカーロゴ] フィールドおよび [デバイスロゴ] フィールドの画像を削除します。

5.1.1 Web サイト言語

ユーザーインターフェースの言語を選択します。

5.1.2 メーカーロゴ

ウィンドウ右上のメーカーロゴを置き換えるには、このフィールドに適切な画像へのパスを入力します。画像ファイルは Web サーバーに保存されている必要があります。

5.1.3 デバイスロゴ

ウィンドウ左上のデバイス名を置き換えるには、このフィールドに適切な画像へのパスを入力します。画像ファイルは Web サーバーに保存されている必要があります。

5.1.4 VCA メタデータ表示

映像コンテンツ解析 (VCA) を有効にすると、ライブ映像に追加情報が表示されます。たとえば、解析の種類に MOTION+ を使用した場合、動体検知で録画した映像のセンサーフィールドに黄色の四角いマークが表示されます。

Essential Video Analytics または Intelligent Video Analytics を使用した場合は、検出されたオブジェクトの外観が次の色で表示されます。

- 赤色：現在の設定でアラームイベントを生成したオブジェクトは、カメラ画像上に赤色の輪郭線で囲まれて表示されます。

- オレンジ：アラームイベントを 1 回トリガーしたが他のイベントはトリガーしなかったオブジェクトは、オレンジの輪郭線で囲まれて表示されます（例：ラインを横切ったオブジェクトなど）。フォレンジックサーチ中にアラームイベントをトリガーしたオブジェクトには、最初からオレンジの輪郭線が表示されます。
- 黄色：動体として検出されたが現在の設定ではアラームイベントを生成していないオブジェクトは、黄色の輪郭線で囲まれて表示されます。

5.1.5 VCA 軌跡表示

（特定のカメラのみ）

対応する解析方法が有効になっている場合、ライブビデオ画像に映像コンテンツ解析からの軌跡（オブジェクトの動線）が表示されます。オブジェクトの接地面を基点とした輪郭線が緑色で表示されます。

5.1.6 オーバーレイアイコンの表示

このチェックボックスをオンにすると、ライブ映像にオーバーレイアイコンが表示されます。

5.1.7 VCA 項目の表示

映像解析に設定されているアラームフィールド、ライン、ルートを次の色で表示します。

- 緑色：タスクで使用しているフィールド、ルート、ラインは緑色で表示されます。これらの項目は編集できますが、削除はできません。
- 赤色：現在アラームモードのフィールド、ライン、ルートは赤色で表示されます。

5.1.8 遅延モード

必要な遅延モードを選択します。

5.1.9 JPEG 映像のサイズ、間隔、および画質

サイズを選択し、ライブページに表示される M-JPEG 画像の間隔と品質を更新します。最高品質は [1] です。サイズで [最適サイズ] を選択すると、ユニットはネットワーク容量をベースに品質を決定します。

5.2 ライブ機能

任意の要件に合うように [ライブ] ページの機能を適応できます。情報やコントロールを表示するかどうかを選択する、さまざまなオプションがあります。

1. [ライブ] で表示する機能のチェックボックスをオンにします。
選択した項目にチェックマークが表示されます。
2. 任意の時間が表示されているかを確認します。

5.2.1 音声伝送

(音声機能を備えたカメラでのみ使用可)

選択すると、カメラの音声 ([音声] ページで [オン] に設定した場合) がコンピュータに送信されます。この設定は、選択を加えたコンピュータのみに適用されます。音声データを伝送するには、ネットワーク帯域を増やす必要があります。

5.2.2 リース時間 [秒]

(一部のカメラでのみ使用可能)

カメラを制御しているユーザーからの制御信号が受信されなくなつてから、別のユーザーの制御が許可されるまでの間隔を、秒単位で指定します。この時間を過ぎると、自動的に別のユーザーが使用できるようになります。

5.2.3 アラーム入力表示

(アラーム接続端子付きのカメラのみ)

アラーム入力のアイコンが、割り当てられた名称と共に、ビデオ画像の横に表示されます。アラーム入力がかかると、それに対応するアイコンの色が変わります。

5.2.4 アラーム出力表示

(アラーム接続端子付きのカメラのみ)

アラーム出力は、割り当てた名前のアイコンでビデオ画像の横に表示されます。出力がかかるとアイコンの色が変わります。

5.2.5 スナップショット許可

ライブモード表示で使用するプレーヤの種類を選択します。

5.2.6 ローカル録画許可

ビデオシーケンスをローカルに保存するためのアイコンをライブ画像の下に表示するかどうかを設定できます。このアイコンが表示されている場合にのみ、映像シーケンスをハードディスク上にローカルで保存できます。

5.2.7 トフレームのみのストリーム

選択すると、[ライブ] ページにトフレームのみを表示できる追加タブが表示されます。トフレーム画質が [オート] に設定されていないことを確認してください。[オート] に設定されていると、更新が行われません。

5.2.8 登録ポジションの表示

ライブページ上での登録ポジションウィジェットの表示/非表示を切り替える場合に選択します。

5.2.9 インテリジェントトラッキングの表示

(一部のカメラでのみ使用可能)

ライブページ上でのインテリジェントトラッカーパネルの表示/非表示を切り替える場合に選択します。

5.2.10 JPEG/映像ファイル保存先

[ライブ] ページから画像と映像シーケンスを保存する場合の保存先を入力します。

5.2.11 映像ファイル形式

ライブページ表示用のファイル形式を選択します。MP4 形式にはメタデータは含まれません。

6 設定 - カメラ

6.1 カメラ - インストーラーメニュー

6.1.1 ベースフレームレート

カメラのベースフレームレートを選択します。

注意：この値は、シャッター時間、フレームレート、およびアナログ出力（ある場合）に影響します。

6.1.2 カメラ LED

（一部のカメラでのみ使用可能）

カメラのスイッチをオフにするには、[カメラ LED] をオフにします。

6.1.3 [MENU] ボタン

[無効] を選択すると、カメラ自体の [Menu] ボタンからインストーラーウィザードにアクセスできないようになります。

6.1.4 アナログ出力

アスペクト比形式を選択すると、カメラのアナログ出力が有効になります。

6.1.5 デバイスの再起動

カメラを再起動するには、[再起動] をクリックします。

6.1.6 出荷時デフォルト設定

カメラの設定を出荷時の状態に戻すには、[デフォルト] をクリックします。確認画面が表示されます。カメラが画像を最適化するまで、リセットから数秒間待ちます。

6.2 カメラ - 位置調整

座標系を使用すると、カメラの位置を定義するパラメーターを入力できます。

一部のパノラマカメラでは、取り付け位置（壁、天井、カスタムなど）を選択することもできます。

位置決め機能は、カメラの位置とそのカメラの視野における奥行きなどの空間を示します。

この空間情報は、遠くのオブジェクトを小さく錯覚するのをシステムで補正できるようにするため、映像解析に欠かせない情報です。

空間情報を使用することで、人物、自転車、乗用車、トラックなどのオブジェクトを識別して、3次元の空間を移動するオブジェクトの実際のサイズや速度を正確に計算することが可能になります。

ただし、空間情報を正確に計算するには、平らな単一の水平面にカメラを向ける必要があります。複数の斜面や坂または階段では、誤った空間情報により速度などのオブジェクト情報が不正確に生成される可能性があります。

取り付け位置

カメラの適切な取り付け位置を選択します。表示されるオプションはカメラの種類によって異なります。

- 設定なし
- カスタム

DINION カメラまたは FLEXIDOME カメラではキャリブレーションの設定を選択します。CPP7 または CPP7.3 プラットフォームのカメラには、チルト角とロール角を決定する 6 軸ジャイロセンサーが内蔵されています。

取り付け位置自体も、空間情報を表すキャリブレーションと呼ばれることがよくあります。

取り付け位置は、一般的に高さ、ロール角、チルト角、焦点距離などのカメラのパラメーターによって決まります。

カメラの高さは常に手動で入力する必要があります。ロール角とチルト角はできるだけカメラで自動設定してください。レンズ内蔵タイプのカメラは、焦点距離も自動的に設定されます。

チルト角 [°]

チルト角がカメラで自動判定できない場合は手動入力してください。

チルト角は水平線とカメラ間の角度を表します。

チルト角が 0° の場合、カメラが地面と平行に取り付けられていることを意味します。

チルト角が 90° の場合は、カメラが下向きに取り付けられていることを意味します。

チルト角を水平に近く設定するほど、オブジェクトのサイズおよび速度の推定値は不正確になります。この設定角度は 0°と 90°の間に設定する必要があります。0°にすると、推定値は計算できません。

ロール角 [°]

ロール角がカメラで自動判別できない場合は手動入力してください。ロール角はロール軸と水平面間の角度を表します。この角度は水平から最大 45°まで傾けることができます。

高さ [m]

カメラの取り付け位置の高さをメートルで入力してください。高さはカメラから撮影画像の地表面までの垂直距離を表します。通常は、取り付けられたカメラの地表からの高さです。

焦点距離

カメラによってこの値が自動判別できない場合は、カメラの取り付け位置からの焦点距離を手動入力してください。

焦点距離はレンズによって決まります。焦点距離が短いほど、視野は広くなります。また、焦点距離が長いほど視野は狭くなり、倍率は高くなります。

センサーの値を表示...

クリックすると、チルト角 [°]、ロール角 [°]、焦点距離などのカメラパラメーターが自動的に表示されます。

これらのキャリブレーション値はデバイスのセンサーで測定されます。[OK] をクリックすると、これらの値は位置決め設定ページに転送されます。

スケッチ

自動キャリブレーション改善のために利用します。[**Sketch Calibration** (スケッチキャリブレーション)] ウィンドウが表示されます。

スケッチ機能は、半自動でキャリブレーションを行う方法を追加します。このキャリブレーション方法は、垂直ライン、地表ライン、地表角をカメラの画像に線描して正しいサイズと確度を入力することでカメラ視野の空間を表すことができます。自動キャリブレーションの結果が十分に適切でない場合は、スケッチ機能を使用してください。

この手動キャリブレーションは、手動で入力した、またはカメラによって計測されたロール角、チルト角、高さ、焦点距離の値と組み合わせることもできます。

**注記!**

スケッチ機能は FLEXIDOME IP パノラマカメラでは利用できません。

VCA プロファイル

適切なプロファイルを選択します。

グローバル

[**Global** (グローバル)] チェックボックスをオンにすると、グローバルな全体的キャリブレーションを、すべての AUTODOME カメラと MIC カメラで使用できます。

その一方で、[**Global** (グローバル)] チェックボックスをオフにすると、選択したプロファイルに対し、ローカルのキャリブレーションを取得してグローバルキャリブレーションを上書きすることができず。そのためには、VCA プロファイルを事前に選択する必要があります。

注記!

スケッチ機能は、登録ポジションが設定済み、かつ割り当て済みの場合にのみ利用できます。

AUTODOME カメラと MIC カメラでは、カメラの登録ポジションを設定して、利用可能な 16 種類の VCA プロファイルの 1 つに割り当ててからスケッチを使用したキャリブレーションを行ってください。斜面またはより大きな焦点距離でのキャリブレーションを最適化できるように、各登録ポジションで異なる地面方向にカメラを向けるときに利用できます。ローカルの登録ポジションにおけるキャリブレーションはグローバルキャリブレーションに影響しません。

また、グローバルキャリブレーションを入力せずに登録ポジションに対してキャリブレーションすることもできます。



算出

[算出] チェックボックスをオンにすると、カメラに配置した垂直ライン、地表ライン、角度などのスケッチされたキャリブレーション要素から、ロール角、チルト角、高さ、焦点距離を取得できます。

手動で値を入力するか、カメラから提供される値を更新するには [計算] チェックボックスをオフにします。

チルト角 [°] / ロール角 [°]

角度を手動で入力するか、更新のアイコンをクリックして、カメラに装備されているセンサー（あれば）で提供される値を取得します。あるいは、[計算] チェックボックスをオンにして、画像にマークされたキャリブレーション要素に基づいた値を取得します。

高さ [m]

高さを手動で入力するか、更新のアイコンをクリックして、カメラに装備されているセンサー（あれば）で提供される値を取得します。あるいは、[計算] チェックボックスをオンにして、画像にマークされたキャリブレーション要素に基づいた値を取得します。

焦点距離 [mm]

焦点距離を手動で入力するか、更新のアイコンをクリックして、カメラに装備されているセンサーがある場合には提供される値を取得します。あるいは、[算出] チェックボックスをオンにして、画像上にマークされたキャリブレーション要素に基づいた値を取得します。

[**Sketch Calibration** (スケッチキャリブレーション)] ウィンドウを使用したカメラのキャリブレーション

自動設定できない場合の設定方法

1. 値がわかる場合は、チルト角、ロール角、高さ、焦点距離を入力します。たとえば、地表からのカメラの高さを計測したり、レンズからの焦点距離を測るなどの方法で得た値を使用して入力します。
2. それでもまだ不明な各値には、[算出] チェックボックスをオンにしてから、カメラの画像にキャリブレーション要素を配置します。これらのキャリブレーション要素を使用して、カメラ画像に表示された環境の個々の輪郭線をトレースし、これらのラインサイズおよび角の位置を設定します。



- をクリックして画像に垂直なラインを配置します。垂直ラインは、ドア枠、ビルの縁、街灯など、地表面に対して垂直なラインに対応します。



- をクリックして画像に地表ラインを配置します。地表ラインは、路面標識など、地表面のラインに対応します。



- をクリックして画像に地表角を配置します。地表角は、カーペットの四隅や駐車場のマーキングなど、水平な地表面上にある角を表します。
3. キャリブレーション要素を状況に合わせて調整します。
- ラインまたは角の実際のサイズを入力します。これを行うには、ラインまたは角を選択し、対応するボックスにサイズを入力します。
例: 自動車の下側に地表ラインを配置します。自動車の長さは 4 m であるとわかっています。ラインの長さとして 4 m を入力します。
 - ラインまたは角の位置または長さを調整します。これを行うには、カメラ画像内の目的の位置までラインまたは角をドラッグするか、終点を移動させます。
 - ラインまたは角を削除します。これを行うには、ラインまたは角を選択してから、ごみ箱のアイコンをクリックします。

注意:

青のラインは、ユーザーが追加したキャリブレーション要素を示します。

白のラインは、現在のキャリブレーション結果または特定されたキャリブレーションデータに基づいて、カメラ画像に配置されるべき要素位置、角度を表します。

水平線

値が一致した場合、カメラ画像上の領域の背景に色が付きます。

青色: この領域は空に対応しています。青色の領域の下部ラインは水平線を表します。青の領域内で検出されたオブジェクトは、サイズまたは速度によって正しく識別することはできません。

たとえば、カメラがビルの比較的低い高さに設置されている場合、カメラがカバーする領域全体が水平線より下になるので、この部分はいらないことを示しています。

注記!



カメラまでの距離 (ジオロケーション) が適切ではない場合は、互いの間での高さや焦点距離を特定するだけで十分です。これにより、2~3人を (それぞれ垂直ラインで) マークしてサイズを設定することにより、簡単なキャリブレーションを行えます。すべての人について、1.80 m (71 インチ) で設定できます。最良の結果を得るためには、少なくとも1人を画像の手前側で、1人を画像の後ろ側で使用してください。

座標系

座標系を選択し、選択した座標系に応じて表示される追加の入力フィールドに適切な値を入力します。

座標系機能は、ローカルの直交座標系、またはグローバルの **WGS 84** 座標系でカメラの位置を示します。映像解析で追跡されるカメラおよびオブジェクトはマップ上に表示されます。

直交座標系

直交座標系は、3つの直交する軸である、X、Y、およびZの組み合わせによって空間内の各地点を示します。ここでは、XおよびYが地表面での広がりを表し、Zが地表面からの高さを表す右手系の座標系が使用されます。

X [m]

X軸上の地表のカメラの位置。

Y [m]

Y軸上の地表のカメラの位置。

Z [m]

地表面からの高さ。カメラの高さを決定するには、カメラのZ [m] 値と高さ [m] 値を追加します。

WGS 84

WGS 84 座標系とは、世界を球面で表す座標系で、GPS を含む多数の規格で採用されています。

緯度

緯度は、球面座標系 WGS 84 におけるカメラの南北の位置を示します。

経度

経度は、球面座標系 WGS84 におけるカメラの東西の位置を示します。

床からの高さ [m]

海拔 0m の地表からの高さ。カメラの高さを決定するには、カメラの床からの高さ [m] 値と高さ [m] 値を追加します。

方位角 [°]

東 0°から始まる反時計周りの角度 (WGS 84) または X 軸上 (直交座標系) でのカメラの向き。カメラが北向き (WGS 84) または Y 軸 (直交座標系) に配置されている場合、方位角は 90°です。

6.3 カメラ - 映像設定

コントラスト拡張

デフォルトでは、このオプションは [オン] であり、コントラストとシャープネスの拡張を ([コントラスト拡張レベル] フィールドで) 調整できます。

[オフ] を選択すると、コントラストの拡張は無効になります。カメラのコントラストが小さくなり、シャープネスが強調されなくなります。

コントラスト拡張レベル

バーをスライドして [コントラスト拡張] を変更するか、0~7 の範囲の値を入力します。

以下の点に注意してください。

- コントラスト拡張レベルが高いほど、コントラストとシャープネスの強調が大きくなります。
- コントラスト拡張レベルが高いと、コントラストが大きくなるだけでなく、ランダム映像ノイズも強調されます。エンコーダーの設定によって、画像のビットレートが大きくなったり、圧縮率が低くなる場合があります。
- コントラスト拡張レベルが高すぎると、シーン内の類似した色の領域が混ざって見える場合があります。映像の暗い領域同士が混ざること、映像の明るい領域同士が混ざることもあります。

- コントラスト拡張レベルが低すぎると、温度に近いオブジェクトを見分けにくくなる場合があります。

注意: このフィールドは、[コントラスト拡張] のオプションが [オン] の場合にのみ表示されます。

映像ゲインレベル

映像ゲインのレベルを選択します。このレベルで、サーマル映像に適用されるゲイン/倍率を調整します。値の範囲は 0~265 で、デフォルト値は 128 です。

注意: 2 つの異なる温度のオブジェクトが含まれている特定のシーンの映像ゲインレベルを上げると、シーン内の 2 つのオブジェクト間のグレースケールまたは色の差異が大きくなります。

映像の輝度

映像の輝度を選択します。輝度は、映像信号に DC オフセットを付加することでサーマル映像シーンの明るさを調整します。値の範囲は 0~265 で、デフォルト値は 128 です。

白（高温）モードでシーンが暗すぎる場合、または黒（高温）モードでシーンが明るすぎる場合は、映像の輝度を上げます。ホワイトホット映像は明るくなり、ブラックホット映像は暗くなります。

映像が明るすぎる（ホワイトホット）場合、または暗すぎる（ブラックホット）場合は、映像の輝度を下げます。

ノイズリダクション

デフォルトでは、このオプションは [オン] です。

ノイズリダクションを [オン] にすると、テンポラルノイズリダクションが有効になり、ピクセル間の差異がしきい値より小さい場合に、一定の時間にわたってピクセルを平均化することで、ランダム映像ノイズが低減されます。[オフ] にすると、テンポラルノイズリダクションは無効になります。

不適切なカラーマッピング

いずれかの [不適切なカラーマッピング] オプションを選択して、温度範囲を表す色を変更します。

極性

[標準] または [反転] を選択して、色を反転します。

デフォルト

すべての映像の値を工場出荷時の設定に戻すには、[デフォルト] をクリックします。

6.4 カメラ・エンコーダー設定

エンコーダー設定では、動作環境 (ネットワーク構造、帯域幅、データ負荷) に合わせて映像データの伝送特性を調整できます。デバイスでは、伝送用に 2 つの H.264 / H.265 ビデオストリームと 1 つの MJPEG ストリームが同時に生成されます。これらのストリームの圧縮設定は、たとえば、1 つはインターネットへの伝送用に設定し、もう 1 つは LAN 接続用に設定するなどのように個別に設定できます。

エンコーダープロファイルの設定の詳細については、エンコーダープロファイルを参照してください。

エンコーダーストリームの設定の詳細については、エンコーダーストリームを参照してください。

エンコーダー領域の設定の詳細については、エンコーダー領域を参照してください。

6.5 カメラ・プライバシーマスク

(一部のカメラでのみ使用可能)

プライバシーマスクは、シーンの特定領域が表示されないようにブロックするときに使用します。プライバシーマスク領域を 8 つ定義できます。

1. マスクのパターンの色を選択します。
2. ドロップダウンボックスで定義するマスクを選択します。
3. [有効] チェックボックスをオンにし、マスクを有効にします。
4. マウスを使用してマスクを移動します。角をドラッグしてサイズを変更します。
5. [セット] をクリックします。
6. マスクを削除するには、マスクを選択してごみ箱アイコンをクリックします。

注意 :

領域にさらに調整ポイントを追加するには、辺をダブルクリックします。

6.6 カメラ - 音声

(音声機能を備えたカメラでのみ使用可)

音声信号のゲインを特定の要件に合わせて設定できます。ライブ映像がウィンドウに表示され、音声を確認することができます。変更はすぐに有効になります。

Web ブラウザー経由で接続する場合は [「ライブ」機能] ページで音声伝送を有効にする必要があります。その他の接続の場合は、音声伝送はそれぞれのシステムの音声設定によって変わります。

音声信号は、個別のデータストリームとして映像データと並行して送信されるため、ネットワークの負荷が増大します。音声データは、選択した形式でエンコーディングされ、接続には追加の帯域分が必要で、音声データを伝送しない場合は [オフ] を選択します。

6.6.1 音声

ドロップダウンリストから音声入力を選択します。

6.6.2 入力ボリューム

スライダーを使用して音声レベルを調整します。インジケーターが赤のゾーンに入らないように調整します。

6.6.3 ライン出力

スライダーを使用して音声レベルを調整します。インジケーターが赤のゾーンに入らないように調整します。

6.6.4 記録形式

音声録音のフォーマットを選択します。デフォルト値は **AAC 48kbps** です。必要な音声品質またはサンプリングレートに応じて、**AAC 80kbps**、G.711、または L16 を選択できます。

AAC 音声テクノロジーは、Fraunhofer IIS によってライセンス供与されています

(<http://www.iis.fraunhofer.de/amm/>)

6.7 カメラ・ピクセルカウンター

強調表示された領域によってカバーされている水平および垂直方向のピクセルの数が画像の下に表示されます。これらの値から、識別タスクなどの特定の機能の要件を満たしているかどうかを確認できます。

1. 測定したいオブジェクトが動いている場合は、[一時停止]をクリックして、カメラの画像を固定します。
2. ゾーンの位置を変えるには、カーソルをそのゾーンの上に置き、マウスボタンを押したまま必要な位置にドラッグします。
3. ゾーンの形を変更するには、カーソルをゾーンの端に置き、マウスボタンを押したまま、ゾーンの端を必要な位置にドラッグします。

7 エンコーダー設定

7.1 エンコーダー設定について

エンコーダー設定は、カメラによって生成される4つのストリームの特性を決定します。生成可能なストリームの種類は次のとおりです。

- ストリーム 1
- ストリーム 2
- 録画用のI-フレームのみのストリーム
- M-JPEG ストリーム

[エンコーダープロファイル] ページでは、8つの異なるプロファイルに対して、ビットレート、エンコーディング間隔、および GOP (Group-of-Pictures) の構造と品質を定義し、保存できます。

2種類の H.264 ストリームの解像度と、各ストリームに使用する事前定義済みのプロファイルは、[エンコーダーストリーム] ページで選択します。JPEG ストリームの最大フレームレートと品質も、ここで選択します。

録画用のストリームとプロファイルは、[録画プロファイル] ページで選択します。

[エンコーダー領域] ページでは、画像のさまざまな領域の各種品質レベルを選択できます。これは、ビットレートを下げる際に役立ちます。たとえば、重要なオブジェクトを選択して、選択した背景領域よりも高品質でエンコーディングできます。

7.2 エンコーダープロファイル

プロファイルはかなり複雑で、相互に関連する多くのパラメーターが含まれているため、通常は、事前に定義されているプロファイルのままを使用することをお勧めします。プロファイルの変更にあたっては、すべての設定オプションを十分に理解してください。

7.2.1 事前定義済みのプロファイル

8つの定義可能なプロファイルがあります。事前に定義されているプロファイルでは、さまざまなパラメーターに優先度が設定されていません。

- プロファイル 1
高帯域幅接続向けの高解像度
- プロファイル 2
低データレートの高解像度
- プロファイル 3
低帯域幅接続向けの高解像度
- プロファイル 4
高帯域幅接続向けの標準解像度
- プロファイル 5
低データレートの標準解像度
- プロファイル 6
低帯域幅接続向けの標準解像度
- プロファイル 7
DSL 接続向けの標準解像度
- プロファイル 8
携帯電話接続向けの低解像度

7.2.2 プロファイルの変更

プロファイルを変更するには、プロファイルのタブをクリックして選択し、そのプロファイルのパラメーターを変更します。

パラメーターに許容範囲外の値を入力した場合、保存時に、その設定に最も近い許容値に置き換えられます。

7.2.3 プロファイル名

必要に応じて、プロファイルの新しい名前を入力します。

7.2.4 ターゲットビットレート

ネットワーク帯域を最適化するには、デバイスのデータレートを制限します。ターゲットビットレートは、激しい動きのない標準的なシーンの画質に合わせて設定してください。

画像が複雑な場合や、動きが多く画像の内容が頻繁に変わる場合は、[最大ビットレート] フィールドに入力した値を上限として、一時的にこの制限値を引き上げることができます。

7.2.5 最大ビットレート

エンコーダーは、必要に応じて画質を制限することで、多数の GOP (グループオブピクチャ) にわたって最大ビットレートを維持します。最大ビットレートの長期安定性を確保するには、[エキスパート設定] の下の [平均化時間] を使用します。

このフィールドに入力する値は、[ターゲットビットレート] フィールドに入力する値よりも 10% 以上高くなければなりません。ここで入力した値が低すぎる場合、自動的に調整されます。

このフィールドの値は、ネットワーク伝送ビットレートとは異なります。

7.2.6 エンコーディング間隔

[エンコーディング間隔] スライダーにより、画像をエンコードして転送する間隔が決まります。これは、特に低帯域幅の場合に適しています。画像レートはスライダーの横に表示されます。

7.2.7 標準画質映像解像度

標準画質映像の解像度を選択します。

7.2.8 エキスパート設定

必要に応じてエキスパート設定を使用して、I-フレーム画質と P-フレーム画質を調整してください。設定は H.264 量子化パラメーター (QP) に基づいています。

GOP 構造

GOP (Group-of-Pictures) に必要な構造を選択します。遅延を可能な限り最小限にすることを優先するか (IP フレームのみ)、使用する帯域幅を可能な限り最小限にすることを優先するかに応じて、IP、IBP、IBBP から構造を選択できます (GOP 選択を使用できないカメラもあります)。

平均化時間

長時間のビットレートを安定させる手段として、適切な平均化時間を選択します。

I-フレーム間隔

スライダーを使用してI-フレーム間の距離を [オート] に設定するか、**3~60** の範囲で設定します。「3」と入力すると、I-フレームが2つおきになります。数値を小さくするほど、生成されるI-フレームが多くなります。

P フレーム量子化パラメーター(最低)

H.264 プロトコルでは、量子化パラメーター (QP) によって圧縮度、すなわち各フレームの画質を指定します。QP 値を小さくすると、エンコーディングの品質が向上します。品質が向上すると、データ負荷が増えます。標準的な QP 値は 18~30 です。ここで、P フレームの量子化の値を小さく (すなわち P フレームの品質が最大限になるよう) 定義します。

量子化パラメーターの I/P-フレームデルタ

このパラメーターでは、P フレーム QP に対する I フレーム QP の比率を設定します。たとえば、スライドコントロールを負の値に移動して I フレームの値を小さく設定できます。このように、P フレームに関連して I フレームの品質を上げることができます。総データ負荷は大きくなりますが、I フレームの部分に限定されます。

映像内の動きが多い場合でも最低限の帯域幅で最高画質を実現するには、品質設定を次のように設定します。

1. プレビュー映像内の動きが通常であるときに、カバーされるエリアを確認します。
2. 必要な画質に適合する範囲で、[**P フレーム量子化パラメーター(最低)**] を最高値に設定します。
3. [**量子化パラメーターの I/P-フレームデルタ**] を最低限の値に設定します。こうして、通常のシーンで帯域幅とメモリを節約できます。動きが増えても、帯域幅が [**最大ビットレート**] の値まで増加するため、画質は維持されます。

バックグラウンドデルタ QP

[**エンコーダー領域**] で定義した背景領域の、適切なエンコーディング品質レベルを選択します。QP 値を小さくすると、エンコーディングの品質が向上します。

オブジェクトデルタ QP

[エンコーダー領域] で定義したオブジェクト領域の、適切なエンコーディング品質レベルを選択します。QP 値を小さくすると、エンコーディングの品質が向上します。

7.2.9 デフォルト

プロファイルをデフォルト値に戻すには、[デフォルト] をクリックします。

7.3 エンコーダーストリーム

H.264 設定の選択

1. ドロップダウンボックスから、ストリーム 1 のコーデックアルゴリズムの [プロパティ] を選択します。
2. 定義済みの 8 つのプロファイルから、ストリーム 1 の [非録画用プロファイル] を選択します。
 - このプロファイルは、録画には使用されません。ストリームが録画に使用される場合は、[録画プロファイル] ページで選択されたプロファイルが使用されます。
3. ストリーム 2 のコーデックアルゴリズムの [プロパティ] を選択します (選択肢は、ストリーム 1 に対して選択したアルゴリズムによって異なります)。
4. 定義済みの 8 つのプロファイルから、ストリーム 2 の [非録画用プロファイル] を選択します。
 - このプロファイルは、録画には使用されません。ストリームが録画に使用される場合は、[録画プロファイル] ページで選択されたプロファイルが使用されます。

M-JPEG ストリームのパラメーターを設定します。

- [解像度] を選択します。
- 画像の [最大フレームレート] を ips (images per second) 単位で選択します。
- [画質] スライダーで、M-JPEG 画質を [低] から [高] まで調整できます。

注意 :

M-JPEG フレームレートはシステム負荷に応じて異なります。

7.4 エンコーダー領域

エンコーダー領域は、画像の選択可能なエリアのエンコード品質レベルの上げ下げに使用されます。エンコーダー領域を使用すると、重要な領域 (オブジェクト) のエンコード品質のレベルを上げ、重要度の低い領域 (バックグラウンド) のエンコード品質のレベルを下げることで、ビットレートをより適切に制御することができます。

8つのエンコーダー領域を定義できます。

1. ドロップダウンボックスから、8つの使用可能領域のうちの1つを選択します。
2. [+] ボックスをクリックしてエリアを追加します。
3. 領域によってカバーされるエリアを定義するには、マウスを使用します。
 - 網掛け部分の中心、角、または辺をドラッグします。
 - ポイントをエリアに追加するには、辺をダブルクリックします。
4. 定義した範囲に使用するエンコーダー品質を選択します (オブジェクトと背景の品質レベルは、[エンコーダープロファイル] ページの [エキスパート設定] セクションで定義します) 。
5. 必要に応じて、他の領域を選択し、手順を繰り返します。
6. 領域を削除するには、範囲を選択してごみ箱アイコンをクリックします。
7. [セット] をクリックして領域設定を適用します。

8 録画

8.1 録画について

画像は、適切に設定された iSCSI システムに記録できます。SD スロット付きデバイスの場合、SD カードにローカルで記録できます。

SD カードは、保管期間の短い一時的な録画に適しています。ローカルアラーム録画で使用したり、またはビデオ録画の全般的な信頼性を高めるために使用したりすることができます。

長期間、高品質の画像を保存する場合は、iSCSI システムを使用してください。

[録画 1] と [録画 2] の 2 つの録画トラックを使用できます。標準録画とアラーム録画のどちらの場合も、これらのトラックのそれぞれにエンコーダストリームおよびプロファイルを選択できます。

10 個の録画プロファイルを使用して、これらのトラックに異なる定義を設定できます。これらのプロファイルを使用して、スケジュールが構築されます。

Video Recording Manager (VRM) が iSCSI システムにアクセスして、すべての録画を制御することもできます。VRM は、映像サーバーの録画タスクを設定するための外部プログラムです。

8.2 ストレージ管理

8.2.1 デバイスマネージャー

デバイスマネージャーは、ストレージがローカルで制御されるか、VRM システムによって制御されるかを示します。

ユニット外の Video Recording Manager (VRM) システムは、[Configuration Manager] で設定します。

8.2.2 録画メディア

使用可能なストレージメディアに接続するには、メディアタブを選択します。

iSCSI メディア

ストレージメディアとして [**iSCSI システム**] を使用する場合は、設定パラメーターを設定するために、対象の iSCSI システムに接続されている必要があります。

選択したストレージシステムを、ネットワーク上で使用できるようにセットアップしておいてください。IP アドレスが割り当てられ、論理ドライブ (LUN) に分割されている必要があります。

1. 保存先の iSCSI の IP アドレスを [**iSCSI IP アドレス**] フィールドに入力します。
2. iSCSI がパスワード保護されている場合は、[**パスワード**] フィールドにパスワードを入力します。
3. [**読み込む**] をクリックします。
 - 設定した IP アドレスへの接続が確立されます。

[**ストレージの概要**] フィールドに論理ドライブが表示されます。

ローカルメディア

カメラに SD カードを挿入すると、録画をローカルに保存できます(一部のカメラでは使用不可)。

- ANR に対して SD カードを使用するには、チェックボックスをオンにします。
- SD カードがパスワード保護されている場合は、[**パスワード**] フィールドにパスワードを入力します。

[**ストレージの概要**] フィールドにローカルメディアが表示されます。

注意：

SD カードの録画性能は、SD カードの速度 (クラス) と性能に大きく依存します。クラス 6 以上の SD カードの使用をお勧めします。

8.2.3 ストレージメディアのアクティブ化と設定

使用可能なメディアまたは iSCSI ドライブは、[**管理対象ストレージメディア**] リストに転送され、有効化され、ストレージ用に設定されている必要があります。

注意：

iSCSI ターゲットストレージデバイスに関連付けることのできるユーザーは 1 人だけです。ターゲットが別のユーザーに使用されている場合は、現在のユーザーの関連付けを解除する前に、そのユーザーがターゲットをもう必要としないことを確認してください。

1. [ストレージの概要] セクションでは、ストレージメディア、iSCSI LUN、またはその他の利用可能なドライブの 1 個をダブルクリックします。
 - メディアがターゲットとして [管理対象ストレージメディア] リストに追加されます。
 - 新しく追加されたメディアは、[ステータス] 列に [非アクティブ] として表示されます。
2. [セット] をクリックすると、[管理対象ストレージメディア] リスト内のすべてのメディアがアクティブになります。
 - [ステータス] 列に、すべてのメディアが [オンライン] として表示されます。
3. [録画 1] 列または [録画 2] をオンにして、選択したターゲットに録画する録画トラックを指定します。

8.2.4 ストレージメディアのフォーマット

ストレージメディア上のすべての録画はいつでも消去できます。録画データを消去する前に必ず内容を確認し、重要な録画データのバックアップをコンピューターのハードディスクに保存してください。

1. [管理対象ストレージメディア] リストでストレージメディアをクリックして、選択します。
2. リストの下の [編集] をクリックします。
3. 新しいウィンドウの [フォーマット] ボタンをクリックして、ストレージメディア内のすべての録画を消去します。
4. [OK] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

8.2.5 ストレージメディアの非アクティブ化

[管理対象ストレージメディア] リストのストレージメディアを非アクティブにすることができます。非アクティブにすると、録画に使用されなくなります。

1. [管理対象ストレージメディア] リストでストレージメディアをクリックして、選択します。
2. リストの下の[削除]をクリックします。ストレージメディアが非アクティブになり、リストから削除されます。

8.3 録画プロファイル

録画プロファイルには、録画に使用するトラックの特性が含まれています。これらの特性は、10 個の異なるプロファイルに定義できます。プロファイルは、[録画スケジューラ] ページで特定の曜日または時間帯に割り当てることができます。

各プロファイルは色分けされています。プロファイルの名前は、[録画スケジューラ] ページで変更できます。

プロファイルを設定するには、プロファイルのタブをクリックして、設定ページを開きます。

- 現在表示されている設定を他のプロファイルにコピーするには、[設定のコピー] をクリックします。ウィンドウが開き、コピーした設定を適用するプロファイルをそこで選択します。
- プロファイルの設定を変更した場合は、[セット] をクリックして保存します。
- 必要な場合は、[デフォルト] をクリックすると、すべての設定が出荷時のデフォルト値に戻ります。

ストリームプロファイル設定

録画時に、ストリーム 1 および 2 に使用するエンコーダープロファイル設定を選択します。ここで選択する内容は、ストリームのライブ送信の設定には依存しません (エンコーダープロファイルのプロパティは [エンコーダープロファイル] ページで定義します)。

録画に使用する ROI 登録ポジションシーンを選択します (ストリーム 2 の ROI 登録ポジションは、[ライブ] ページで設定されています)。

8.3.1 録画トラックの選択

標準およびアラーム録画は、2 つの録画トラックに定義できます。標準およびアラーム録画のパラメーターを設定する前に、トラックを選択する必要があります。

1. リストの [録画 1] エントリをクリックします。
2. 後述の手順に従って、トラック 1 の標準およびアラーム録画のパラメーターを設定します。
3. リストの [録画 2] エントリをクリックします。
4. 後述の手順に従って、トラック 2 の標準およびアラーム録画のパラメーターを設定します。

同時記録

音声 (使用可能な場合) などの追加のデータやメタデータ (たとえば、アラームまたは VCA データ) も記録するかどうかを指定します。 (音声を使用できる場合は、音声形式のリンクをクリックして、グローバルな音声形式を変更できます。)

注意 :

メタデータは録画の検索に役に立ちますが、メタデータを同時録画するとその分の記録容量が必要になります。録画に対して映像コンテンツ解析を行うには、メタデータが必要です。

8.3.2 標準録画

標準録画のモードを選択します :

- [連続] : 連続して録画が行われます。最大録画容量に達すると、古い録画が自動的に上書きされます。
- [プレアラーム] : 設定されたアラーム発生前の録画時間、アラーム発生中、アラーム発生後の録画時間の間だけ録画が行われません。
- [オフ] : 自動録画は行われません。

ストリーム

標準録画に使用するストリームを選択します。

- ストリーム 1
- ストリーム 2
- I-フレームのみ

8.3.3 アラーム録画

リストボックスから [アラーム発生前の録画時間] の期間を選択します。

リストボックスから [アラーム発生後の録画時間] の期間を選択します。

アラームストリーム

アラーム録画に使用するストリームを選択します。

- ストリーム 1
- ストリーム 2
- I-フレームのみ

[次のプロファイルのエンコーディング間隔とビットレートを使用：]
チェックボックスをオンにして、エンコーダープロファイルを選択し、アラーム録画に関連付けるエンコーディング間隔を設定します。

アラームトリガー

アラーム録画をトリガーするアラームの種類を選択します。

- アラーム入力
- 解析アラーム
- 仮想アラーム

録画をトリガーする仮想アラームセンサーを、RCP+コマンドやアラームスクリプトなどによって選択します。

アカウント先にエクスポート

ドロップダウンボックスからアカウントを選択して、アカウントにエクスポートします。まだアカウントを定義していない場合は、[アカウントの設定] をクリックして [アカウント] ページにジャンプし、サーバー情報を入力できます。

8.4 最大保存期間

ここで入力した保存期間を過ぎると、録画が上書きされます。

- ▶ 各録画トラックの保存期間を日単位で入力します。

保存期間が使用可能な録画容量を超えないようにしてください。

8.5 録画スケジューラー

録画スケジューラーでは、作成した録画プロファイルをカメラ映像の録画が実行される曜日と時間帯にリンクさせることができます。スケジュールは、平日にも休日にも定義できます。

8.5.1 平日

対象の曜日について、必要な時間の長さ（15分間隔）を割り当てます。マウスカーソルをテーブルに合わせると、時間が表示されます。

1. [時間帯] ボックスで、割り当てるプロファイルをクリックします
2. テーブル内のフィールドをクリックし、マウスの左ボタンを押しながらカーソルをドラッグして、選択したプロファイルに割り当てる時間帯を指定します。
3. 時間帯を選択解除するには、右マウスボタンをクリックします。
4. 選択したプロファイルにすべての時間帯を割り当てるには、[すべて選択] ボタンをクリックします。
5. すべての時間帯の選択を解除するには、[すべてクリア] をクリックします。
6. 選択が完了したら、[セット] ボタンをクリックして、設定をデバイスに保存します。

8.5.2 休日

通常の週間スケジュールの設定よりも優先して設定が実行される休日を定義できます。

1. [休日] タブをクリックします。すでに定義されている曜日がテーブルに表示されます。
2. [追加] をクリックします。新しいウィンドウが開きます。
3. 任意の開始日時をカレンダーから選択します。
4. [終了日時] ボックスをクリックし、カレンダーから日付を選択します。
5. [OK] をクリックして、選択を確定します。これは、テーブル内の単一エントリとして処理されます。ウィンドウが閉じます。
6. 上記の手順で、休日を録画プロファイルに割り当てます。

ユーザー定義の休日を削除するには、次の手順に従います。

1. [休日] タブで [削除] をクリックします。新しいウィンドウが開きます。
2. 削除する日付をクリックします。
3. [OK] をクリックします。テーブルから選択が削除され、ウィンドウが閉じます。

4. 他の日付を削除する場合は同じ手順を繰り返します。

8.5.3 プロファイル名

[時間帯] ボックスに表示される録画プロファイルの名前を変更します。

1. プロファイルをクリックします。
2. [名前の変更] をクリックします。
3. 新しい名前を入力して、もう一度 [名前の変更] をクリックします。

8.5.4 録画のアクティブ化

設定が完了したら、録画スケジュールをアクティブにしてスケジュール録画を開始します。録画をアクティブにすると、[録画プロファイル] と [録画スケジューラ] は入力できなくなり、設定も変更できなくなります。設定を変更するには、スケジュール録画を停止します。

1. 録画スケジュールをアクティブにするには、[開始] をクリックします。
2. 録画スケジュールを非アクティブにするには、[停止] をクリックします。実行中の録画は中断され、設定を変更できるようになります。

8.5.5 録画ステータス

録画の状態がグラフィックで表示されます。録画が行われている間は、録画状態を示すアニメーションが表示されます。

8.6 録画ステータス

録画ステータスに関する詳細情報がここに表示されます。これらの設定は変更できません。

9 アラーム

9.1 アラーム接続

アラーム発生時に、本機は事前に設定した IP アドレスに自動接続できます。接続が確立するまで、リストの順番に従って最大 10 個の IP アドレスへの接続が試みられます。

9.1.1 アラーム発生時に接続

[オン] を選択すると、アラーム発生時に、事前に設定した IP アドレスに自動的に接続します。

9.1.2 接続先 IP アドレス数

アラーム発生時に接続する IP アドレスの数を指定します。接続が確立されるまで、遠隔地のアドレスの番号順に接続していきます。

9.1.3 接続先 IP アドレス

番号ごとに、目的のリモートステーションに対応する IP アドレスを入力します。

9.1.4 接続先パスワード

リモートステーションにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力してください。

ここで定義できるパスワードは 10 個までです。10 を超える接続が必要な場合は、汎用パスワードを定義してください。本機は、同じ汎用パスワードで保護されたすべてのリモートステーションに接続します。汎用パスワードを指定するには次の手順に従います。

1. [接続先 IP アドレス数] リストボックスから、[10] を選択します。
2. [接続先 IP アドレス] フィールドに「0.0.0.0」と入力します。
3. [接続先パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
4. すべてのリモートステーションのユーザーパスワードを、汎用パスワードを使用してアクセスできるように設定します。

接続先 10 に IP アドレス 0.0.0.0 を設定すると、10 番目に試行するアドレスとしての機能が上書きされます。

9.1.5 映像伝送

デバイスをファイアウォール内で使用する場合は、転送プロトコルとして [**TCP** (HTTP ポート)] を選択します。ローカルネットワークで使用する場合は、[**UDP**] を選択します。

マルチキャスト動作のために、このページおよび [ネットワークアクセス] ページの [映像伝送] パラメーターで [**UDP**] オプションを選択します。

注意：

アラームが発生した場合は、映像ストリームが増加するため、大きなネットワーク帯域幅が必要になることがあります (マルチキャスト動作が不可能な場合)。

9.1.6 ストリーム

送信するストリームを選択します。

9.1.7 リモートポート

ネットワーク設定に応じて、適切なブラウザーポートを選択します。

HTTPS 接続用のポートは、[**SSL** 暗号化] が [オン] に設定されている場合にのみ使用できます。

9.1.8 映像出力

ハードウェアレシーバーを使用する場合は、信号の切り替え先のアナログ映像出力を選択します。出力先のデバイスが不明の場合は、[使用可能な最初のユニット] を選択します。信号のない、最初に検出された映像出力に映像が出力されます。

アラームがトリガーされたときのみ、受信ユニットに接続されたモニターに画像が表示されます。

注意：

映像表示オプションおよび利用できる映像出力の詳細については、接続先機器のマニュアルを参照してください。

9.1.9 デコーダー

選択した映像出力に分割表示を設定している場合は、アラーム画像を表示するデコーダーを選択します。選択したデコーダーによって分割画像の位置が決まります。

9.1.10 SSL 暗号化

SSL 暗号化により、パスワードなど、接続の確立に使用されるデータを保護できます。[オン] を選択すると、暗号化されたポートのみを [リモートポート] パラメーターで使用できます。SSL 暗号化は送信側と受信側の両方で設定して有効にしておく必要があります。

また、適切な証明書もアップロードされている必要があります。(証明書は [メンテナンス] ページでアップロードできます。)

[暗号化] ページでメディアデータ (映像、メタデータ、音声 (使用可能な場合) など) の暗号化を設定し、有効にします。

9.1.11 自動接続

[オン] を選択すると、再起動した後や、接続の中断やネットワーク障害が発生した後に、以前に指定した IP アドレスのいずれかへの接続が自動的に再確立されます。

9.1.12 音声

[オン] を選択すると、音声ストリームがアラーム接続を使用して伝送されます。

9.2 映像コンテンツ解析 (VCA)

カメラには、映像コンテンツ解析 (VCA) 機能が内蔵されているため、画像処理アルゴリズムで映像変化を検出、解析することができます。映像の変化は、カメラの視野の移動によって生じる可能性があります。動体検出を使用することで、アラーム発生とメタデータの送出手が可能です。

必要に応じて、さまざまな VCA 設定を選択し、環境に合わせて調整できます。

映像コンテンツ解析の詳細については、VCA の設定を参照してください。

注意：

十分な処理能力がない場合、ライブ映像と録画が優先されます。このため、映像コンテンツ解析が行えなくなる場合があります。CPU 負荷を確認し、必要に応じてエンコーダー設定や VCA 設定を最適化する、VCA を完全にオフにしてください。

VCA 設定のヘルプ

VCA 設定については個別のヘルプが利用できます。ヘルプでは VCA を設定する手順を説明します。完全な VCA 設定およびヘルプは Bosch の MPEG ActiveX ソフトウェアが PC にインストールされている場合に Web ブラウザーからのみ利用できます。たとえば、MPEG ActiveX ソフトウェアは、Bosch Security Systems DownloadStore (<https://downloadstore.boschsecurity.com/>) から入手できます。

VCA のヘルプを Web ブラウザーで開くには、次のようにします。

1. [設定] >> [アラーム] >> [**VCA**] に移動
2. [設定] をクリックします。[VCA 設定] ウィンドウが表示されます。
3. [VCA 設定] ウィンドウが最上部でアクティブになっていることを確認します。そうでない場合は [設定] ウィンドウをクリックしてください。
4. **F1** キーを押します。

9.3 音声アラーム

(音声機能を備えたカメラでのみ使用可)

音声信号に基づいてアラームを生成できます。機械ノイズや背景ノイズによる誤報を防止するため、信号強度と周波数範囲を設定します。音声アラームを設定する前に、通常の音声転送を設定してください。

9.3.1 音声アラーム

本機で音声アラームを生成する場合は、[オン] を選択します。

9.3.2 名称

各アラームに名称を設定しておく、広範なビデオ監視システムでアラームの識別が簡単になります。一意のわかりやすい名称を入力します。

9.3.3 信号範囲

誤報を防止するために特定の信号範囲を除外します。このため、信号全体が 13 のトーン範囲 (旋律的音階) に分割されています。個別の範囲を設定 / 解除するには、図の下のボックスを選択 / 解除します。

9.3.4 しきい値

図に表示される信号に基づいて、しきい値を設定します。しきい値は、スライドコントロールや、図の中の白線をマウスで直接移動して設定します。

9.3.5 感度

図に表示される信号に基づいて、しきい値を設定します。しきい値は、スライドコントロールや、図の中の白線をマウスで直接移動して設定します。

9.4 アラーム E-メール

アラームの状態は E-メールで報告できます。カメラは、ユーザー定義の E-メールアドレスに自動的に E-メールを送信します。これにより、映像受信ユニットを持たない受信者にもアラームをメールで通知することができます。

9.4.1 アラーム E-メール送信

アラーム発生時にデバイスから自動的にアラーム E-メールを送信するには、[オン] を選択します。

9.4.2 メールサーバー IP アドレス

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) 規格で動作するメールサーバーの IP アドレスを入力します。メールは、入力したアドレス経由でメールサーバーに送信されます。それ以外の場合は、このボックスを空白「0.0.0.0」のままにしておきます。

9.4.3 SMTP ポート

適切な SMTP ポートを選択します。

9.4.4 SMTP ユーザー名

選択したメールサーバーに登録されたユーザー名を入力します。

9.4.5 SMTP パスワード

登録されたユーザー名に必要なパスワードを入力します。

9.4.6 フォーマット

アラームメッセージのデータ形式を選択できます。

- 標準 (**JPEG**) : JPEG 画像ファイルが添付された E-メール。
- **SMS** : SMS ゲートウェイに送信される、画像が添付されていない SMS 形式の E-メール

携帯電話を受信ユニットとして使用する場合は、形式に応じて、必ず E-メールまたは SMS 機能を有効にして、メッセージを受信できるようにしてください。携帯電話の操作方法については、携帯電話のプロバイダーにお問い合わせください。

9.4.7 画像サイズ

カメラから送信される JPEG 画像のサイズを選択します。

9.4.8 JPEG 画像添付

このチェックボックスをオンにすると、カメラから JPEG 形式の画像が送信できるようになります。

9.4.9 VCA オーバーレイ

[**VCA overlays**] チェックボックスを選択し、アラームをトリガーしたオブジェクトの輪郭線を、E-メールでスナップショットとして送信するカメラ画像に配置します。

9.4.10 宛先アドレス

アラーム発生時に E-メールを送信するメールアドレスを入力します。アドレスの長さは、49 文字以内です。

9.4.11 送信者アドレス

E-メール送信ユニットの任意の名称 (デバイスの設置場所など) を入力します。これにより、E-メール送信元の識別が簡単になります。

9.4.12 送信テスト

[今すぐ送信] をクリックして、E-メール機能をテストします。アラーム E-メールが作成および送信されます。

9.5 Alarm Task Editor

このページでスクリプトを編集すると、他のアラームページのすべての設定および入力事項が上書きされます。上書きされた設定は、元に戻すことはできません。

このページを編集するには、プログラミングの知識を持ち、Alarm Task Script Language マニュアルの情報を熟知し、英語に精通している必要があります。

アラームページでアラームを設定する代わりに、必要なアラーム機能のスクリプト形式で入力することもできます。このページでスクリプトを編集すると、アラームページのすべての設定および入力事項が上書きされます。

1. [Alarm Task Editor] フィールドの下の [例] リンクをクリックすると、スクリプトの例がいくつか表示されます。新しいウィンドウが開きます。
2. Alarm Task Editor フィールドに新しいスクリプトを入力するか、既存のスクリプトをアラーム要件に合わせて変更します。
3. 終了したら、[セット] ボタンをクリックして、スクリプトをデバイスに転送します。正しく転送されると、「スクリプトの構文解析が正常に終了しました。」というメッセージがテキストフィールドに表示されます。転送が失敗すると、エラーメッセージとその詳細情報が表示されます。

10 VCA の設定

いくつかの VCA 設定が用意されています。

- オフ
- サイレント VCA
- プロファイル 1
- プロファイル 2
- スケジュール
- イベントトリガー

VCA 設定のヘルプ

VCA 設定については個別のヘルプが利用できます。ヘルプでは VCA を設定する手順を説明します。完全な VCA 設定およびヘルプは Bosch の MPEG ActiveX ソフトウェアが PC にインストールされている場合に Web ブラウザーからのみ利用できます。たとえば、MPEG ActiveX ソフトウェアは、Bosch Security Systems DownloadStore (<https://downloadstore.boschsecurity.com/>) から入手できます。

VCA のヘルプを Web ブラウザーで開くには、次のようにします。

1. [設定] >> [アラーム] >> [VCA] に移動
2. [設定] をクリックします。[VCA 設定] ウィンドウが表示されます。
3. [VCA 設定] ウィンドウが最上部でアクティブになっていることを確認します。そうでない場合は [設定] ウィンドウをクリックしてください。
4. **F1** キーを押します。

10.1 VCA - サイレント VCA

この設定では、録画の検索を容易にするためメタデータが作成されませんが、アラームはトリガーされません。

- ▶ [VCA 設定] ドロップダウンリストで [サイレント VCA] を選択します。

このオプションを選択した場合、パラメーターを変更することはできません。

10.2 VCA - プロファイル

VCA 設定の異なる 2 つのプロファイルを作成できます。

1. [**VCA 設定**] ドロップダウンリストでプロファイル 1 または 2 を選択し、必要な設定を入力します。
2. 必要に応じて、[**デフォルト**] をクリックして、すべての設定をデフォルト値に戻します。

プロファイルの名前を変更するには、次の手順に従って操作します。

1. プロファイルの名前を変更するには、リストフィールドの右側のアイコンをクリックして、新しいプロファイル名を入力します。
2. アイコンをクリックします。新しいプロファイル名が保存されます。

アラームの状態が参照情報として表示されます。

10.2.1 アグリゲーション時間 [秒]

アグリゲーション時間を 0~20 秒の範囲で設定できます。アグリゲーション時間は、アラームイベントの発生時を起点とします。ここで設定された値によりアラームイベントが拡張されます。これにより、短い時間で連続してアラームイベントが発生した場合に、複数のアラームがトリガーされてイベントが短時間の間に連続して発生することがなくなります。アグリゲーション時間中は、アラームがそれ以上発生することはありません。

アラーム録画用に設定されたアラーム発生後の録画時間の開始は、アグリゲーション時間の終了時のみです。

10.2.2 解析タイプ

必要な解析タイプをドロップダウンメニューから選択します。解析タイプごとに、アラームルール、オブジェクトフィルター、および追跡モードに対するさまざまなレベルの制御が可能です。

これらの使用方法の詳細については、VCA のマニュアルを参照してください。

[**設定**] をクリックして、解析タイプを設定します。

10.3 VCA - スケジュール

VCA プロファイルと映像コンテンツ解析をアクティブにする日付と時間帯をリンクさせるためには、スケジュールを設定してください。

- ▶ [**VCA 設定**] ドロップダウンリストで [**スケジュール**] を選択します。

スケジュールは、平日にも休日にも定義できます。

アラームの状態が参照情報として表示されます。

10.3.1 平日

曜日別に、15 分単位で VCA プロファイルにリンクさせることができます。マウスカーソルをテーブルに合わせると、下方に時間が表示され、どの時間帯が設定されているかを確認できます。

1. [**時間帯**] フィールドで、リンクさせるプロファイルをクリックします。
2. テーブル内のフィールドをクリックし、マウスボタンを押しながらカーソルをドラッグして、選択したプロファイルに割り当てる時間帯を指定します。
3. 時間帯を選択解除するには、右マウスボタンをクリックします。
4. 選択したプロファイルにすべての時間帯をリンクさせるには、[**すべて選択**] をクリックします。
5. すべての時間帯の選択を解除するには、[**すべてクリア**] をクリックします。
6. 選択が完了したら [**セット**] ボタンをクリックして、設定をカメラに保存します。

10.3.2 休日

休日には標準の週単位のスケジュールとは異なるプロファイルが有効になるように設定できます。

1. [**休日**] タブをクリックします。すでに選択されている日がテーブルに表示されます。
2. [**追加**] をクリックします。新しいウィンドウが開きます。
3. 設定する日付をカレンダーから選択します。複数の日付を続けて選択するには、マウスボタンを押しながらドラッグします。これらの設定は、テーブル表示に戻ったときに 1 つの設定内容として表示されます。

4. [**OK**] をクリックして、選択を確定します。ウィンドウが閉じます。
5. 上記の手順で、個々の休日と VCA プロファイルを関連付けます。

休日の削除

ユーザーが定義した休日はいつでも削除できます。

1. [**削除**] をクリックします。新しいウィンドウが開きます。
2. 削除する日付をクリックします。
3. [**OK**] をクリックします。項目がテーブルから削除され、ウィンドウが閉じます。
4. 別の日を削除するには、この手順を繰り返します。

10.4 VCA - イベントトリガー

この設定によって、イベントによってトリガーされたときに限り映像コンテンツ解析を有効にすることができます。

- ▶ [**VCA 設定**] ドロップダウンリストで [**イベントトリガー**] を選択します。

トリガーが非アクティブなときは、メタデータが作成される [**サイレント VCA**] 設定が有効になります。このメタデータにより録画の検索は簡単になりますが、アラームはトリガーされません。

アラームの状態が参照情報として表示されます。

10.4.1 トリガー

物理アラームまたは仮想アラームをトリガーとして選択できます。

仮想アラームは、RCP+コマンドまたはアラームスクリプトなどのソフトウェアを使用して作成できます。

10.4.2 トリガーアクティブ

トリガーがアクティブの場合に有効になる VCA 設定を選択します。

リストフィールドの右側に緑色のチェックマークが表示されている場合は、そのトリガーがアクティブであることを示しています。

10.4.3 トリガー非アクティブ

トリガーが非アクティブの場合に有効になる VCA 設定を選択します。

リストフィールドの右側に緑色のチェックマークが表示されている場合は、そのトリガーは非アクティブになっています。

10.4.4 遅延 [秒]

映像コンテンツ解析が反応して信号をトリガーするまでの遅延時間を選択します。設定した遅延時間が経過した後、アラーム生成条件が成立している場合にアラームがトリガーされます。設定した遅延時間内にアラーム生成条件が無効になった場合、アラームはトリガーされません。遅延時間を設定することで、誤報や頻繁なトリガー起動などを防止することができます。遅延時間中は、[サイレント VCA] 設定が継続されます。

11 インターフェース

11.1 アラーム入力

本機のアラームトリガーを設定します。

接点が開いたときにアラームをトリガーする場合は、[**NC 接点**] (常閉) を選択します。

接点が開いたときにアラームをトリガーする場合は、[**NO 接点**] (常開) を選択します。

接点が開いたときにアラームをトリガーする場合は、[**NC 接点**] (常閉 - 監視) を選択します。

接点が開いたときにアラームをトリガーする場合は、[**NO 接点**] (常開 - 監視) を選択します。

監視アラームでは、アラーム条件といたずら検出の状態を転送します。

アラームの設定に応じて、アラームの回路のショートまたは遮断によっていたずら検出信号がトリガーすることができます。

(NCS 接点および NOS 接点は一部のカメラにのみ表示されます)

11.1.1 名称

アラーム入力の名前を入力します。入力した名前は、[**ライブ**] ページのアラーム入力アイコンの下に表示されます (設定した場合)。

11.1.2 アクション

(一部のカメラでのみ使用可能)

アラーム入力が発生したときに実行する内容を選択します。

- なし

- モノクロ

これにより、カメラがモノクロモードに切り替わります。

- モード切換

これが選択されている場合は、アラーム発生時および未発生時に使用するシーンモードを選択できます。

11.2 アラーム出力

出力の切り替え動作を設定します。

出力を自動的にアクティブにするさまざまなイベントを選択します。たとえば、動体検出アラームがトリガーされると投光照明をオンに、アラームが停止されたら投光照明をオフにします。

11.2.1 アイドル状態

出力を通常開の接点として動作させる場合は、[開] を選択し、出力を通常閉の接点として動作させる場合は、[閉] を選択します。

11.2.2 操作モード

出力の動作方法を選択します。

たとえば、アラーム終了後に起動したアラームを継続する場合は、[双安定] を選択します。起動したアラームを 10 秒間継続する場合は、[10 秒] を選択します。

11.2.3 出カトリガーイベント

出力をトリガーするイベントを選択します。

11.2.4 出力名

アラーム出力に名前を付けることができます。この名前は [ライブ] ページに表示されます。

11.2.5 出力を切り替え

テストを行う場合やドアの自動開閉を操作する場合など、アラーム出力を手動で切り替える場合は、このボタンをクリックします。

11.3 COM1

データコネクタ付きの場合は、このメニューを使用して、データ転送を設定します。

11.3.1 シリアルポートの機能

リストから制御可能なユニットを選択します。シリアルポートを使用して透過的にデータを伝送する場合は、[透過] を選択します。ターミナルモードで本機を操作する場合は、[ターミナル] を選択します。

ユニットを選択すると、ウィンドウ内の残りのパラメーターが自動的に設定されて、変更できなくなります。

11.3.2 カメラ ID

必要に応じて、ドームカメラやパン / チルト雲台など、制御する周辺機器の ID を入力します。

11.3.3 ボーレート

伝送速度の値 (bps) を選択します。

11.3.4 データビット

1 文字当たりのデータビットの数は変更できません。

11.3.5 ストップビット

1 文字当たりのストップビットの数を選択します。

11.3.6 パリティチェック

パリティチェックの種類を選択します。

11.3.7 インターフェースモード

シリアルインターフェースのプロトコルを選択します。

12 ネットワーク

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを変更すると、デバイスの再起動後に新しいアドレスを使用できます。

12.1 ネットワークサービス

このページでは、利用可能なすべてのネットワークサービスについて説明します。ネットワークサービスはチェックボックスでアクティブまたは非アクティブにします。ネットワークサービスの横にある設定シンボルをクリックして、このネットワークサービスの設定ページに移動します。

12.2 ネットワークアクセス

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを変更すると、デバイスの再起動後に新しいアドレスを使用できます。

12.2.1 IPv4 自動割当

IP アドレスを動的に割り当てるための DHCP サーバーがネットワークにある場合、[オン] または [オン+リンクローカルアドレス] を選択して、DHCP が割り当てた IP アドレスを自動的に受け入れます。DHCP サーバーが利用できない場合、オン+リンクローカルアドレスを選択して、Link-Local (Auto-IP) アドレスを自動的に割り当てます。

一部のアプリケーションでは、DHCP サーバーが、IP アドレスと MAC アドレス間の固定割り当てに対応している必要があります。割り当てられた IP アドレスがシステム再起動時に毎回保持されるように、DHCP サーバーを適切に設定する必要があります。

12.2.2 IPv4 アドレス

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。この IP アドレスは、ネットワークで有効なものである必要があります。

サブネットマスク

選択した IP アドレスの適切なサブネットマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス

デバイスを別のサブネットで遠隔地に接続する場合は、ここにゲートウェイの IP アドレスを入力します。使用しない場合は、このフィールドを空 (0.0.0.0) にします。

12.2.3 IPv6 アドレス

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。この IP アドレスは、ネットワークで有効なものである必要があります。

プリフィックス長

選択した IP アドレスの適切なプリフィックス長を入力します。

ゲートウェイアドレス

デバイスを別のサブネットで遠隔地に接続する場合は、ここにゲートウェイの IP アドレスを入力します。使用しない場合は、このフィールドを空 (0.0.0.0) にします。

12.2.4 DNS サーバーアドレス

デバイスが DNS サーバーに登録されていると、簡単にアクセスできます。たとえば、インターネット経由でカメラと接続を確立する場合、DNS サーバー上でデバイスに割り当てられた名前を、ブラウザで URL として入力するだけで済みます。DNS サーバーの IP アドレスを入力します。サーバーはセキュアなダイナミック DNS に対応しています。

12.2.5 映像伝送

デバイスをファイアウォール内で使用する場合、転送プロトコルとして TCP (ポート 80) を選択してください。ローカルネットワークで使用する場合は、[UDP] を選択します。

マルチキャスト接続は、UDP プロトコルでのみ可能です。TCP プロトコルはマルチキャスト接続に対応していません。

12.2.6 HTTP ブラウザーポート

必要に応じて、リストから別の HTTP ブラウザーポートを選択します。デフォルトは 80 です。HTTPS への接続を制限するには HTTP ポートを非アクティブにします。非アクティブにするには、[オフ] オプションを選択します。

12.2.7 HTTPS ブラウザーポート

ブラウザーでのアクセスを、暗号化された接続のみに制限するには、リストから HTTPS ポートを選択します。デフォルトは 443 です。

[オフ] オプションを選択して HTTPS ポートを非アクティブにすると、暗号化されていないポートへの接続のみに制限されます。

このカメラは TLS 1.0 暗号化プロトコルを使用しています。ブラウザーが TLS 1.0 プロトコルをサポートするように設定されていることを確認してください。また、Java アプリケーションのサポートが有効になっていることも確認してください (Windows の [コントロールパネル] の Java プラグインのコントロールパネル)。

SSL 暗号化に接続を限定するには、HTTP ブラウザーポート、RCP+ポート、Telnet サポートで [オフ] オプションを設定します。これにより、暗号化されていない接続がすべて非アクティブとなり、HTTPS ポートでの接続のみが可能になります。

[暗号化] ページでメディアデータ (映像、音声、およびメタデータ) の暗号化を設定して有効にします。

12.2.8 必要な最低 TLS バージョン

必要な最低 TLS バージョン

Transport Layer Security (TLS) の最低バージョンを選択します。

12.2.9 HSTS

Web セキュリティポリシー HTTP Strict Transport Security(HSTS) を使用してセキュリティ保護された接続を行うには、[オン] を選択します。

12.2.10 RCP+ポート 1756

[RCP+ポート 1756] をアクティブにすると、このポートでの暗号化されていない接続が許可されます。暗号化された接続だけを許可するには、[オフ] オプションを設定してポートを無効にします。

12.2.11 インターフェースモード ETH

必要に応じて、ETH インターフェースのイーサネットリンクの種類を選択します。接続されているデバイスによっては、特殊な処理を選択する必要があります。

12.2.12 ネットワーク MSS [バイト]

IP パケットのユーザーデータについて、最大セグメントサイズを設定します。これによって、データパケットのサイズをネットワーク環境に合わせて調整し、データ伝送を最適化します。UDP モードでは、以下で設定される MTU 値に従ってください。

12.2.13 iSCSI MSS [バイト]

iSCSI システムへの接続には、ネットワーク経由の他のデータトラフィックよりも高い MSS 値を指定できます。指定できる値は、ネットワーク構造によって異なります。iSCSI システムが同じサブネットにある場合に限り、MMS 値を高くするメリットがあります。

12.2.14 ネットワーク MTU [バイト]

データ伝送を最適化するためのパッケージサイズ (IP ヘッダーを含む) の最大値をバイト単位で指定します。

12.3 DynDNS

12.3.1 DynDNS の使用

動的ドメインネームサービス (DNS) により、ユニットの現在の IP アドレスを把握していなくても、ホスト名を使用してインターネット経由でユニットを選択できます。必要であれば、ここでこのサービスを有効にします。有効にするには、いずれかの動的 DNS プロバイダーのアカウントを持ち、そのサイトでユニットに必要なホスト名を登録する必要があります。

注意：

サービス、登録プロセスおよび使用可能なホスト名については、プロバイダーにお問い合わせください。

12.3.2 プロバイダー

ドロップダウンリストから動的 DNS プロバイダーを選択します。

12.3.3 ホスト名

ユニットに登録したホスト名を入力します。

12.3.4 ユーザー名

登録したユーザー名を入力します。

12.3.5 パスワード

登録したパスワードを入力します。

12.3.6 今すぐ登録を実行

DynDNS サーバーに IP アドレスを転送すると、すぐに登録されます。頻繁に変更されるエントリーは、DNS (Domain Name System) で提供されません。カメラをはじめてセットアップするときに、登録を実行することをお勧めします。サービスプロバイダーによるブロックを防ぐために、この機能は必要な場合にのみ実行し、1日に1回以上更新しないことをお勧めします。本機の IP アドレスを転送するには、[実行] ボタンをクリックします。

12.3.7 ステータス

DynDNS 機能のステータスが表示されます。これは情報提供が目的のため、変更できません。

12.4 詳細設定

12.4.1 クラウドベースサービス

操作モードにより、カメラと Cloud-based Security and Services の間の通信方法が決定されます。

- カメラが数回サーバーをポーリングできるようにする (コンタクトがとれない場合はポーリングを中止する) には、オートを選択します。
- サーバーを常にポーリングするには、オンを選択します。
- ポーリングをブロックするには、オフを選択します。

12.4.2 RTSP ポート

RTSP データ交換用の別のポートをリストから選択します。標準は 554 です。RTSP 機能を無効にするには、[オフ] を選択します。

12.4.3 認証 (802.1x)

Radius サーバー認証を設定するには、ネットワークケーブルを使用してユニットとコンピュータを直接接続します。Radius サーバーがネットワーク上のアクセス権を制御する場合、[On] を選択して認証を有効にすると、ユニットと通信できます。

1. Radius サーバーがユニットに使用するユーザー名を [ID] フィールドに入力します。
2. Radius サーバーがユニットに要求するパスワードを入力します。

12.4.4 TCP メタデータ入力

このデバイスでは、ATM や POS デバイスなどの外部の TCP ユニットからデータを取得して、メタデータとして保存できます。TCP 通信のポートを選択します。機能を無効にするには、[オフ] を選択します。有効な送信者 IP アドレスを入力してください。

12.5 ネットワーク管理

12.5.1 SNMP

このカメラは、ネットワークコンポーネントの管理と監視用として SNMP V1 (Simple Network Management Protocol) をサポートしており、SNMP メッセージ (トラップ) を IP アドレスに送信することができます。共通コードで SNMP MIB II をサポートしています。[SNMP] パラメーターに [オン] を選択して、SNMP ホストアドレスを入力しない場合、デバイスはトラップを自動送信せずに SNMP 要求に応答します。1 つまたは 2 つの SNMP ホストアドレスが入力されている場合は、SNMP トラップが自動送信されます。SNMP 機能を無効にするには、[オフ] を選択します。

SNMP ホストアドレス

SNMP トラップを自動的に送信するには、1 つまたは 2 つのターゲットデバイスの IP アドレスをここで入力します。

SNMP トラップ

送信するトラップを選択するには次の手順に従います。

1. [選択] をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。

2. 該当するトラップのチェックボックスをオンにします。
3. [セット] をクリックしてウィンドウを閉じ、選択したトラップをすべて送信します。

12.5.2 UPnP

UPnP 通信を有効にするには、[オン] を選択します。無効にするには、[オフ] を選択します。

ユニバーサルプラグアンドプレイ (UPnP) 機能を有効にすると、ユニットはネットワークからの要求に回答し、要求しているコンピュータ上で新規ネットワークデバイスとして自動的に登録されます。登録通知の数が多くなるため、この機能は大規模なインストールでは使用しないでください。

注意 :

Windows コンピュータ上で UPnP 機能を使用するには、ユニバーサルプラグアンドプレイデバイスと SSDP 探索サービスの両方を有効にする必要があります。

12.5.3 サービス品質

DSCP (DiffServ Code Point) を定義することで、複数のデータチャネルの優先度を設定できます。0 ~ 252 の範囲の 4 の倍数で数字を入力します。アラーム映像の場合は、通常の映像よりも高い優先度を設定でき、この優先度が維持されるアラーム後時間を定義できます。

12.6 マルチキャスト

カメラで複数の受信ユニットを有効にして、映像信号を同時に受信させることができます。ストリームは、複製されてから複数の受信ユニットに送信されるか (マルチユニキャスト)、単一のストリームとしてネットワークに送信されてから、定義されたグループ内の複数の受信ユニットに同時に配信されます (マルチキャスト)。

マルチキャスト動作には、UDP と IGMP V2 (インターネットグループ管理プロトコル) を使用するマルチキャスト対応ネットワークが必要です。ネットワークでグループ IP アドレスがサポートされている必要があります。他のグループ管理プロトコルには対応していません。TCP プロトコルはマルチキャスト接続に対応していません。

マルチキャスト対応ネットワークでは、225.0.0.0～239.255.255.255 のマルチキャスト用の特殊な IP アドレス (クラス D アドレス) を設定する必要があります。マルチキャストアドレスは、複数のストリームに同じアドレスを使用できますが、それぞれに別のポートを使用する必要があります。

この設定は、ストリームごとに個別に行う必要があります。ストリームごとに専用のマルチキャストアドレスとポートを指定します。ストリームを切り替えるには、該当するタブをクリックします。映像チャンネルはストリームごとに個別に選択できます。

12.6.1 有効

複数の受信ユニットでの同時データ受信を可能にするには、マルチキャスト機能を有効にする必要があります。マルチキャスト機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、マルチキャストアドレスを入力します。

12.6.2 マルチキャストアドレス

マルチキャストモード (ネットワーク内でデータストリームを複製する) で使用するマルチキャスト用の有効なアドレスを入力します。

「0.0.0.0」を設定すると、ストリームのエンコーダーはマルチユニキャストモードで動作します (デバイス内でデータストリームをコピー)。このカメラは、最大 5 台の受信ユニットに同時送信する、マルチユニキャスト接続に対応しています。

データの複製処理は CPU 負荷が大きく、場合によっては画質が劣化することがあります。

12.6.3 ポート

ストリームのポートアドレスをここに入力します。

12.6.4 ストリーミング

チェックボックスをオンして、マルチキャストストリーミングモードを有効にします。有効化されたストリームにはチェックが表示されます（通常、標準のマルチキャスト処理ではストリーミングは必要ありません）。

12.6.5 マルチキャストパケット TTL

ネットワークにおけるマルチキャストデータパケットの有効期間を数値で入力します。ルーターを経由してマルチキャストを実行する場合は、1 よりも大きい値を入力します。

12.7 画像転送

JPEG 転送を使用したり、録画をエクスポートしたりするには、まずターゲットアカウントを定義する必要があります。

12.7.1 JPEG 転送

個別の JPEG 画像を特定の間隔で FTP サーバーに保存します。

画像サイズ

カメラから送信される JPEG 画像のサイズを選択します。JPEG の解像度は、2 つのデータストリームのうち、高い値に設定されている方の解像度に対応します。

ファイル名

転送される画像のファイル名を作成する方法を選択します。

- 上書き：常に同じファイル名が使用されます。既存のファイルがあれば、すべて上書きされます。
- インクリメント：000 から 255 までの数字をインクリメント (+1) し、ファイル名に追加します。インクリメントの数字が 255 に達すると、新たに 000 から開始されます。
- 日付／時刻を付加：日付と時刻が自動的にファイル名に付加されます。このパラメーターを設定する場合は、デバイスの日付と時刻が常に正しく設定されていることを確認してください。たとえば、2005 年 10 月 1 日 11 時 45 分 30 秒に保存されたファイルは、「snap011005_114530.jpg」となります。

転送間隔

画像が FTP サーバーに送信される間隔を入力します。画像を送信しない場合は「0」を入力します。

特定の映像チャンネルから JPEG 画像を送信するには、該当するチェックボックスをオンにします。

ターゲット

JPEG 転送用のターゲットアカウントを選択します。

12.8 アカウント

転送と録画のエクスポート用に、4 つの別アカウントを定義できます。

種類

アカウントタイプとして FTP または Dropbox のどちらかを選択します。

Dropbox アカウントを使用する前に、デバイスの時刻設定が正しく同期していることを確認してください。

アカウント名

ターゲット名として表示するアカウント名を入力します。

FTP サーバーの IP アドレス

FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

FTP サーバーのログイン情報

アカウントサーバーのログイン名を入力します。

FTP サーバーのパスワード

アカウントサーバーへのアクセス許可が設定されているパスワードを入力します。[チェック] をクリックして、正しいことを確認します。

FTP サーバーの保存パス

アカウントサーバーに画像を送信するための正確なパスを入力します。必要なパスを検索するには、[参照...] をクリックします。

最大ビットレート

アカウントと通信するときに許可する最大ビットレートを kbps 単位で入力します。

暗号化

セキュアな FTP over TLS 接続を使用するには、このボックスを選択します。

12.9 IPv4 フィルター

デバイスに、アクティブに接続できる IP アドレスの範囲を制限するには、IP アドレスとマスクを入力します。2 つの範囲を定義できます。

- ▶ [セット] をクリックし、アクセスを制限することを確定します。

これらの範囲のどちらかが設定されると、デバイスにアクティブに接続することが許可される IP V6 アドレスはなくなります。

デバイス自体は、接続を開始するように設定されている場合、定義された範囲の外から接続を開始できます (アラームを送信する場合など)。

13 サービス

13.1 メンテナンス

注記!

ファームウェアのアップデートを開始する前に、正しいアップロードファイルを選択していることを確認してください。



ファームウェアのインストールを中断しないでください。別のページに変更したり、ブラウザウィンドウを閉じたりするだけでもインストールが中断されます。

誤ったファイルをアップロードしたり、アップロードを中断したりすると、デバイスのアドレスを指定できなくなり、交換する必要があります。

新しいファームウェアをアップロードすることで、カメラの機能やパラメーターを更新できます。更新するには、最新のファームウェアパッケージをネットワーク経由でデバイスに転送します。ファームウェアは自動的にインストールされます。このように、カメラの保守や更新は離れた場所から行うことができ、技術者が現場でデバイスを変更する必要がありません。最新のファームウェアは、カスタマーサービスセンターまたはダウンロードエリアから入手できます。

13.1.1 アップデートサーバー

更新サーバーのアドレスが、アドレスボックスに表示されます。

1. [チェック] をクリックして、サーバーに接続します。
2. カメラに適したバージョンを選択して、サーバーからファームウェアをダウンロードします。

13.1.2 ファームウェア

ファームウェアをアップデートするには次の手順に従います。

1. まず、ファームウェアファイルをハードディスクに保存します。
2. ファームウェアファイルのフルパスをフィールドに入力するか、[参照...] をクリックしてファイルを選択します。
3. [アップロード] をクリックして、デバイスへのファイル転送を開始します。プログレスバーで転送の進捗をモニターできます。

新しいファームウェアを解凍して、フラッシュメモリーに再プログラムされます。「going to reset Reconnecting in ... seconds」というメッセージで残り時間が表示されます。アップロードが正常に終了すると、デバイスが自動的に再起動されます。

アップロードの成否は動作ステータス LED の点灯色でわかります。赤色で点灯する場合、アップロードは失敗ですのでやり直してください。アップロードをやり直す場合は専用のページに移動します。

1. ブラウザのアドレスバーで、以下のようなデバイスの IP アドレスの後に/main.htm と入力します。
192.168.0.10/main.htm
2. アップロードを再度実行します。

13.1.3 アップロード履歴

[表示] をクリックすると、ファームウェアのアップロード履歴が表示されます。

13.1.4 設定

デバイスの設定データをコンピューターに保存し、コンピューターに保存した設定データをデバイスにロードします。

コンピューターからデバイスに設定データをロードするには、次の手順に従います。

1. [アップロード] をクリックして、ダイアログボックスを表示します。
ロードするファイルが、再設定するデバイスと同じデバイスタイプ用であることを確認します。
2. 目的の設定ファイルを見つけて開きます。
プログレスバーで転送の進捗をモニターできます。

カメラの設定を保存するには、次の手順に従います。

1. [ダウンロード] をクリックして、ダイアログボックスを表示します。
2. 必要に応じてファイル名を入力し、保存します。

13.1.5 メンテナンスログ

サポートを依頼する場合は、内部メンテナンスログをデバイスからダウンロードして、カスタマーサービスに送信します。[名前を付けて保存...] をクリックして、ファイルの保管場所を選択します。

13.2 ライセンス

このウィンドウでは、アクティベーションコードを入力して、追加機能をアクティブにすることができます。インストール済みライセンスの概要が表示されます。ユニットの設置コードもここに表示されません。

13.3 証明書

13.3.1 使用状況

HTTPS サーバー

HTTPS サーバーのデフォルトの証明書を選択します。

EAP-TLS クライアント

Extensible Authentication Protocol-Transport Layer Security (EAP-TLS) のクライアントを選択します。注意 : 「なし」オプションだけが表示される場合もあります。

TLS-DATE 信頼済み証明書

Transport Layer Security-Date (TLS-DATE) の信頼済み証明書を選択します。

SYSLOG クライアント

SYSLOG のクライアントを選択します。

信頼済み証明書を追加/削除

証明書を追加するには、+記号をクリックします。

証明書を削除するには、証明書の右にあるごみ箱アイコンをクリックします。

注意 : 削除できるのは追加された証明書だけです。デフォルトの証明書は削除できません。

13.3.2 証明書の追加

ファイルリストへの証明書/ファイルの追加

[追加] をクリックします。

[証明書の追加] ウィンドウで、いずれかを選択します。

- 既に利用可能なファイルを選択する場合は、[証明書のアップロード]。
 - [参照] をクリックして、必要なファイルに移動します。
 - [アップロード] をクリックします。
- 新しい証明書を作成する場合は、署名機関に対する [署名要求の生成]。
 - すべての必要なフィールドに入力し、[生成] をクリックします。
- 自己署名証明書を新規に生成する場合は、[証明書の生成]。
 - すべての必要なフィールドに入力し、[生成] をクリックします。

ファイルリストからの証明書の削除

証明書の右側にあるごみ箱アイコンをクリックします。[ファイルを削除] ウィンドウが表示されます。削除を確認するには、[OK] をクリックします。削除をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。

注意：削除できるのは追加された証明書だけです。デフォルトの証明書は削除できません。

証明書のダウンロード

ディスクのアイコンをクリックします。

13.4 ログ作成

現在のログレベル

ログエントリを表示する、またはログに記録するイベントのレベルを選択します。

表示エントリー数

表示するエントリーの数を選択します。

13.5 システムの概要

このウィンドウは情報提供を目的としており、変更はできません。テクニカルサポートを受ける際には、この情報を手元に用意しておいてください。

必要に応じて、このページ上のテキストを電子メールにコピーアンドペーストしてください。

14 付録

14.1 著作権表示

The firmware uses the fonts "Adobe-Helvetica-Bold-R-Normal--24-240-75-75-P-138-ISO10646-1" and "Adobe-Helvetica-Bold-R-Normal--12-120-75-75-P-70-ISO10646-1" under the following copyright:

Copyright 1984-1989, 1994 Adobe Systems Incorporated.

Copyright 1988, 1994 Digital Equipment Corporation.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notices appear in all copies and that both those copyright notices and this permission notice appear in supporting documentation, and that the names of Adobe Systems and Digital Equipment Corporation not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

Bosch Security Systems B.V.

Torenallee 49

5617 BA Eindhoven

Netherlands

www.boschsecurity.com

© Bosch Security Systems B.V., 2017